

## 第2次 豊見城市観光振興計画

ウェルカムな思いで ハートがつながり みんなで彩るまち

～次の旅がより楽しみになる とみぐすく～





## 第2次豊見城市観光振興計画策定にあたって



豊見城市は沖縄本島南部に位置し那覇空港から車で15分、市内には2つのインターチェンジを有し、県内各地域へのアクセスもしやすく利便性に優れた地理的特性を有しております。

また、近年では中央地域に「沖縄空手会館」や「おきなわ工芸の杜」が落成し、また西海岸地域では、大型商業施設の開業をはじめ、今後も大型ホテルの建設計画、増床計画が予定されている等、観光産業の更なる発展が予想されます。

本市ではこれまで、「旅のはじまりと終わりの“あじまあ”響むまちとみぐすく」の基本理念のもと、平成25年3月に策定された「第1次豊見城市観光振興計画(H25～R4)」を基に観光振興を推進してまいりました。

計画期間中の令和2年には、新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威を振るい、国内外の観光客数の激減を招き、本市の観光産業にも深刻な影響を与えました。

国内の観光戦略においては、観光の質的向上を象徴とする「持続可能な観光」が掲げられ、国の「観光立国推進基本計画」や県の「第6次沖縄県観光振興基本計画」においても、持続的な観光地域づくりが推進されております。

このような時代の潮流を捉えつつ、本市の最上位計画である「第5次豊見城市総合計画」の施策「観光・リゾート産業の振興」を具体化し、本市固有の文化や環境を維持・発展を推進するため、令和6年度～令和12年度を計画期間とする「第2次豊見城市観光振興計画」を策定いたしました。

計画策定に当たっては、第1次豊見城市観光振興計画で掲げた目標の達成状況の検証や、市民や観光客、事業者アンケート、関係団体へのヒアリング等を実施し、「持続可能な観光地づくり」を目指し4つの基本目標を定めております。

今後は、本計画を基に、官民が一体となり観光産業の付加価値を高め、収益を地域内で循環させることで、持続的に稼ぐことのできる「持続可能な観光地づくり」を目指してまいります。

結びに、豊見城市観光振興計画審議委員会の委員の皆様をはじめ、本計画の策定に多大なるお力添えを賜りました関係者の皆様、また貴重なご意見・ご提言をお寄せ下さいましたすべての皆様に心より御礼申し上げます。

令和6年3月  
豊見城市長 徳元 次人

# INDEX

<b>序章 はじめに</b> .....	<b>1</b>
01 計画策定の背景と目的 .....	3
02 豊見城市観光振興計画の位置づけ .....	4
03 計画の期間 .....	4
<b>第1章 豊見城市観光を取り巻く環境</b> .....	<b>5</b>
01 我が国の観光動向 .....	7
(1) 我が国における観光の傾向 .....	7
(2) 我が国の観光政策 .....	9
02 沖縄県の観光動向 .....	11
(1) 沖縄県における観光の傾向 .....	11
(2) 沖縄県における観光政策 .....	15
<b>第2章 豊見城市観光の現況</b> .....	<b>19</b>
01 豊見城市観光の近況 .....	21
(1) 上位関連計画における観光の位置づけ .....	21
(2) 新たな観光資源 .....	25
02 前計画における取組のふりかえり .....	29
(1) アウトプット評価 .....	29
(2) アウトカム評価 .....	32
03 その他特筆すべき傾向 .....	34
<b>第3章 将来像と目標</b> .....	<b>39</b>
01 豊見城市観光の将来像 .....	41
02 将来像を実現するための4つの目標 .....	43
(1) 市民の生活が豊かに彩る観光 .....	43
(2) 地域の文化がいつまでも彩り続ける観光 .....	44
(3) 自然環境に彩りを与える観光 .....	45
(4) 彩りが重なる面的な観光 .....	45
03 将来像や基本目標に対応する指標 .....	47
(1) 将来像の達成度を測る指標 (KGI) .....	47
(2) 基本目標の達成度を測る指標 (KPI) .....	48

## **第4章 施策と具体的な取組 ..... 49**

01 施策体系 .....	51
02 具体的な取組 .....	52
基本目標1 市民の生活が豊かに彩る観光 .....	52
基本目標2 地域の文化がいつまでも彩り続ける観光 .....	59
基本目標3 自然環境に彩りを与える観光 .....	66
基本目標4 彩りが重なる面的な観光 .....	71

## **第5章 実現に向けて ..... 77**

01 推進体制 .....	79
02 目標指標 .....	80
(1) 将来像に関する目標指標 (KGI) .....	80
(2) 基本目標に関する目標指標 (KPI) .....	80
03 ロードマップ .....	81
基本目標1 市民の生活が豊かに彩る観光 .....	81
基本目標2 地域の文化がいつまでも彩り続ける観光 .....	87
基本目標3 自然環境に彩りを与える観光 .....	91
基本目標4 彩りが重なる面的な観光 .....	95
04 進行管理 .....	103

## **資料編 ..... 1**

01 計画策定の経過 .....	3
(1) 策定の進め方 .....	3
(2) 策定の経過 .....	4
(3) 策定メンバー .....	7
02 各種調査結果 .....	8
(1) 観光客アンケート .....	8
(2) 市民アンケート .....	10
(3) 事業者アンケート .....	12
03 計画の運用 .....	14
(1) 審議委員会の位置付け .....	14
(2) 庁内検討組織委員会の位置付けと役割 .....	15
(3) 活動指標の備考 .....	16



# 序章

---

はじめに

- 
- 01 計画策定の背景と目的
  - 02 豊見城市観光振興計画の位置付け
  - 03 計画の期間

## 01 計画策定の背景と目的

昨今、SDGs など、持続可能な社会を目指す世界潮流において、観光分野においても「持続可能な観光」が求められています。国連世界観光機関では「持続可能な観光」を「訪問客、業界、環境および訪問客を受け入れるコミュニティのニーズに対応しつつ、現在および将来の経済、社会、環境への影響を十分に考慮する観光」と定義づけており、観光まちづくりにおいても、経済、社会文化、環境、これら3つの要素の間で適切なバランスを図り、それぞれにおいて長期的な持続可能性を確保することが必要とされています。そのような中で、新型コロナウイルス感染症の蔓延は、外出自粛の要請や渡航の禁止など、人流に依存する観光産業へ大打撃をもたらし、「持続可能な観光」について改めて考えさせられる契機となりました。

我が国においては、令和5年3月31日に観光立国推進基本法に基づく新たな「観光立国推進基本計画」が閣議決定され、同基本計画の戦略の1つに「持続可能な観光地域づくり」が位置付けられました。また、施策を総合的かつ計画的に推進するために、多様な関係者の適切な役割分担と連携・協力の強化が必要であるとし、国や地方公共団体、住民、観光関係事業者等、各ステークホルダーにおける取組が整理されました。

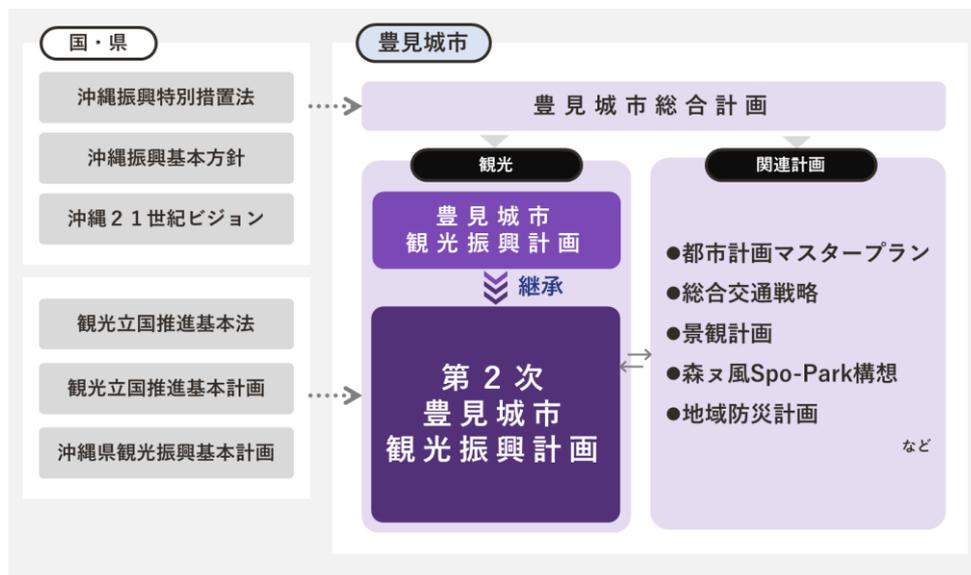
観光をリーディング産業とする沖縄県においても同様に、「新・沖縄 21 世紀ビジョン基本計画」や「第6次沖縄県観光振興基本計画」の中で、世界から選ばれる持続可能な観光地を目指し、経済・社会・環境の3つの視点を踏まえて各種施策が展開されています。

このような情勢の中、本市では平成25年度から令和4年度までの10年間において、第1次豊見城市観光振興計画のもと将来像「旅のはじまりと終わりの“あじまゝ”響むまち とみぐすく」を目指し、観光まちづくりに取り組んできました。この度、第1次豊見城市観光振興計画の計画期間満了を受け、また令和2年度に「第5次豊見城市総合計画」が策定されたことから、同総合計画との整合を図りつつ、昨今の社会情勢や価値観の変化、その他課題等を踏まえ、本市の新たな観光振興の指針が必要となっています。

以上のことから、地域が一体となった持続可能な観光まちづくりの実現を目指し、本市観光振興にとっての指針となることを目的として本計画を策定します。

## 02 豊見城市観光振興計画の位置づけ

本計画は、令和2年度に策定の『第5次豊見城市総合計画』を上位計画とした本市の観光分野における計画として策定します。

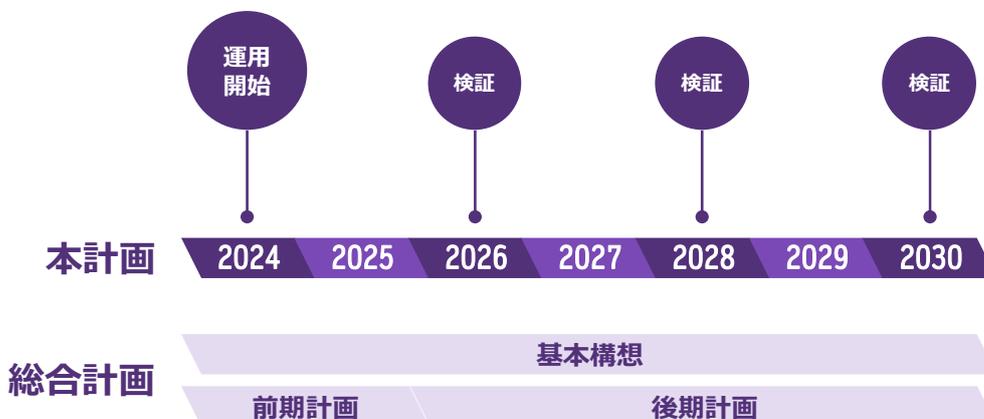


図表 1 計画の位置づけ

## 03 計画の期間

本計画の期間は、上位計画である第5次豊見城市総合計画と終期を合わせ、令和6(2024)年度から令和12(2030)年度までの7か年とします。

また、近年の観光を取り巻く状況の変化の著しさを鑑み、2年に一度検証を行い、必要に応じた見直しを行います。



図表 2 計画期間

# 第 1 章

---

## 豊見城市観光を取り巻く環境



01 我が国の観光動向

02 沖縄県の観光動向

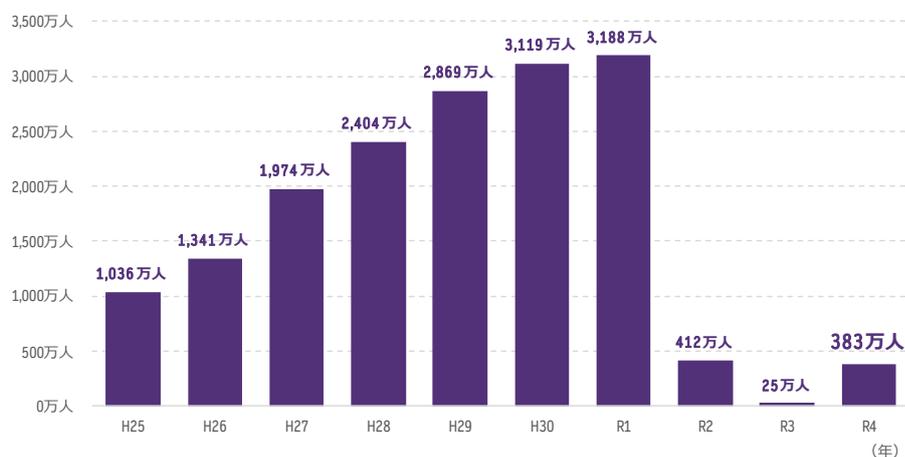
# 01 我が国の観光動向

## (1) 我が国における観光の傾向

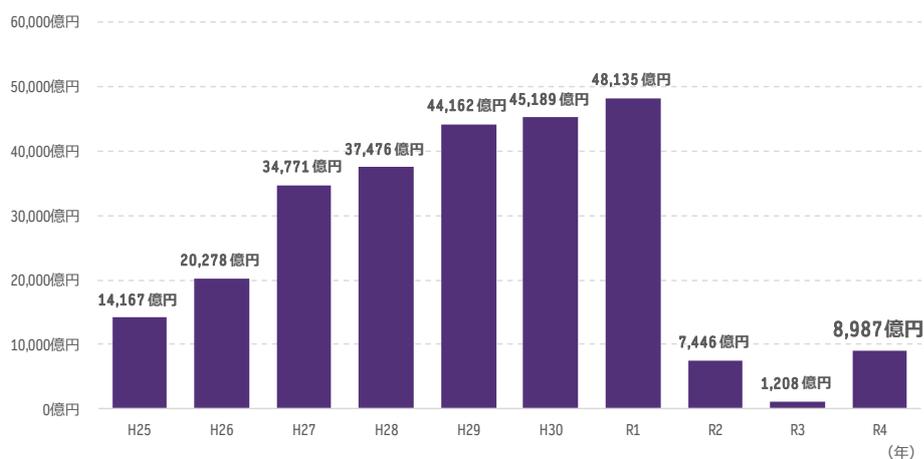
### ア 訪日旅行の状況

新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年以降は大きく減少しましたが、徐々に収束の兆しがみえ、令和4年は383万人でした。ただし、ピークである令和元年の3,188万人とは、未だに大きな乖離があります。

訪日外国人旅行消費額は、令和元年まで増加の一途でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年以降は激減し、令和4年には8,987億円となりました。



図表 3 訪日外国人旅行者数 (H25～R4、訪日外国人旅行者統計)

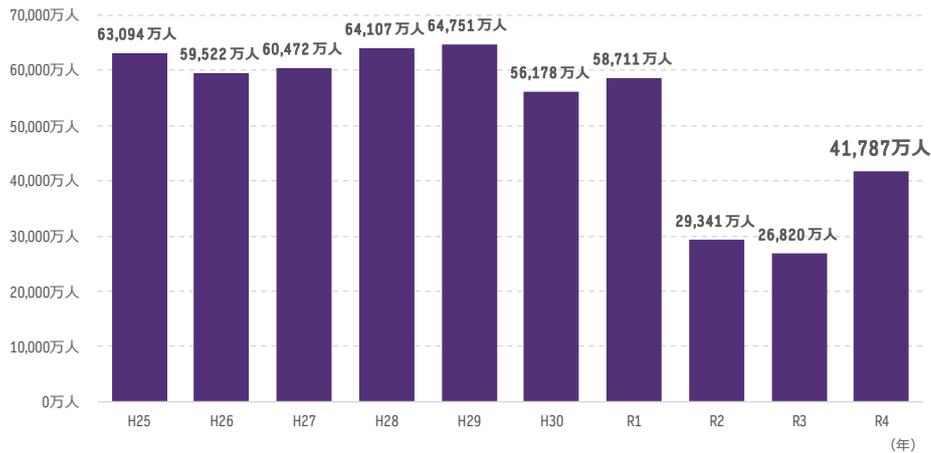


図表 4 訪日外国人旅行消費額 (H25～R4、訪日外国人消費動向調査)

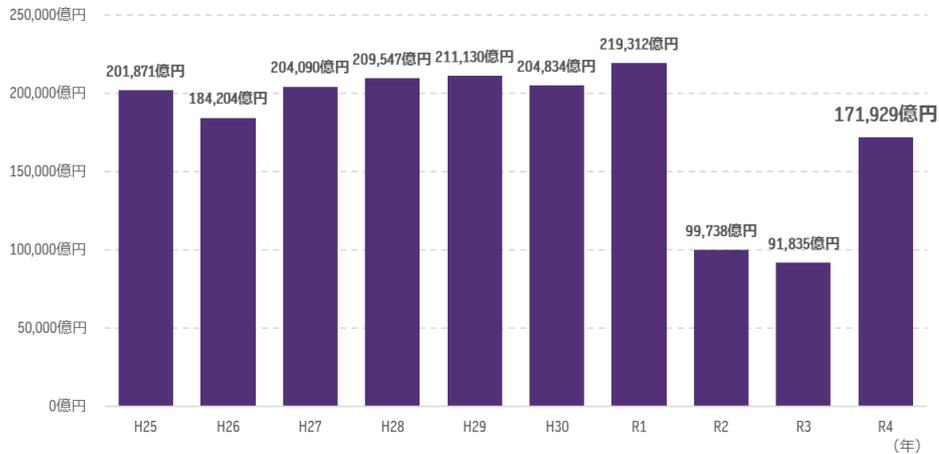
## イ 国内観光の状況

国内旅行者数は平成 29 年の6億 4,751 万人をピークに減少傾向にあり、また、新型コロナウイルス感染症の影響で令和2、3年は大きく減少しました。令和4年には4億 1,787 万人と、令和元年比 71%に回復しています。

日本人国内旅行消費額は、令和元年に 21 兆 9,312 億円と過去最高値でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2、3年は約5割まで減少しました。令和4年には 17 兆 1,929 億円と、令和元年の約 78%まで回復しています。



図表 5 日本人国内旅行者数 (H25～R4、旅行・観光消費動向調査)



図表 6 日本人国内旅行消費額 (H25～R4、旅行・観光消費動向調査)

## (2) 我が国の観光政策

### ア 国内交流の回復・新たな交流市場の開拓

観光産業は新型コロナウイルス感染症の影響による打撃を受け、「新しい旅のエチケット」等により感染拡大防止策を図りながら、「全国旅行支援」や「平日にもう1泊」キャンペーン等を通じた**国内旅行需要喚起**が進められてきました。

また、テレワークやワーケーション、第2のふるさとづくり等の推進に向けたモデル実証やネットワーク化が進み、**新しい交流市場の創出**が図られてきました。

その他、観光施設における心のバリアフリー認定制度の導入により**ユニバーサルツーリズム**が推進されています。

### イ 観光産業の変革

「宿泊業の高付加価値化のための経営ガイドライン」の策定、およびこれに基づく宿泊施設の登録制度を創設し、**観光産業の経営高度化**が推し進められてきました。さらに、「宿泊施設を核とした観光地のDX推進に向けた実証事業」を通じ、個社や産業のみならず、“地域全体”での**生産性・収益性向上**がうたわれてきました。

こうした産業の変革に地域が対応できるよう、産学連携協議会の開催や、「ポストコロナ時代における観光人材育成ガイドライン」の策定により、これからの時代に求められる観光人材の育成が図られてきました。



図表 7 宿泊業の高付加価値化のための経営ガイドライン（観光庁）

## ウ 交流拡大により豊かさを実感できる地域の実現

イに記載の宿泊業のみならず、観光施設の改修等ハード施策や、予約・決済システム構築による面的DX化等ソフト施策に対し、計画的・継続的な支援制度が設けられ、**観光地・観光産業の再生・高付加価値化**が進んできました。

また、全国各地の観光地が、地域独自の稼げる観光コンテンツを造成から販路開拓までの一貫した支援を受け、デジタル技術と地域の観光資源の融合により、**魅力ある観光地域とコンテンツ形成**に取り組み、消費拡大や単価の向上、再来訪の促進が図られてきました。

これらデジタル技術はコンテンツ形成のみならず、マーケティング等にも活用されるべきものとして、実証実験や検討会を通じて、**観光DX**が推進されてきています。

その他、DMOのマーケティング能力向上や、地域が稼ぐことを実現するために、人材育成を充実させ、**観光地域づくり法人全体の底上げ**が図られました。

さらに、サステナブルツーリズムに取り組む地域関係者に向けたナレッジ集の作成・公表や、モデルコンテンツの造成等により、**持続可能な観光地域づくり**が推進されています。

## エ 国際交流の回復・質的な変革

感染症が収束傾向にあることを受け、インバウンドの多様なニーズに対応した観光コンテンツの造成や、訪日外国人旅行者の受入環境整備が再開され、訪日外国人旅行者の誘致、とりわけ**高付加価値旅行者の誘致促進**に取り組まれています。

また、高付加価値旅行者の誘致にあたり、国立公園満喫プロジェクトや、歴史的資源を活用した観光まちづくりにより、自然資源や歴史資源に囲まれた**魅力的な滞在環境の提供**に注力される等質的な変革が進んでいます。

さらに、MICEやIRの推進、航空ネットワークの維持・強化や、クルーズ再興等新型コロナウイルス感染症拡大の影響以前からの取組についても再燃しています。

その他、新型コロナウイルス感染症の影響や国際情勢の複雑化から、旅先での安全に関する関心は高まっており、インバウンド・アウトバウンド共に、**安心・安全な旅に関する情報発信**や普及啓発が重要視されています。



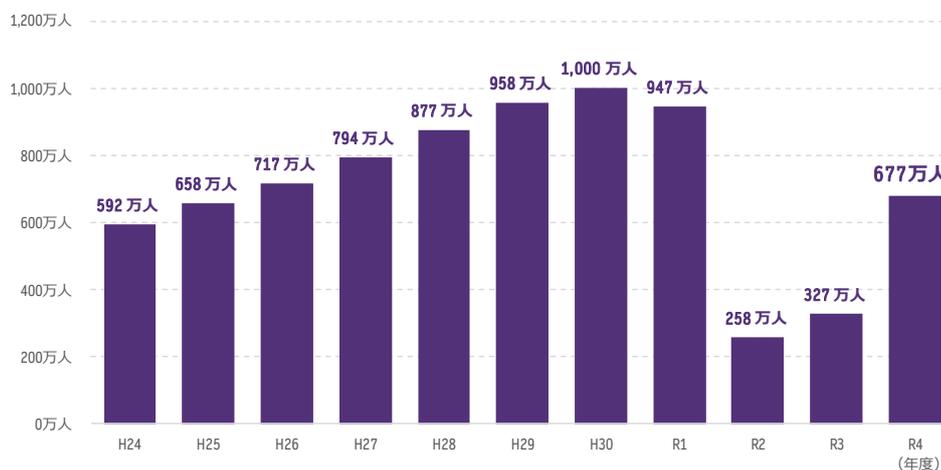
図表 8 那覇空港国際線ターミナルの様子

## 02 沖縄県の観光動向

### (1) 沖縄県における観光の傾向

#### ア 入域観光客

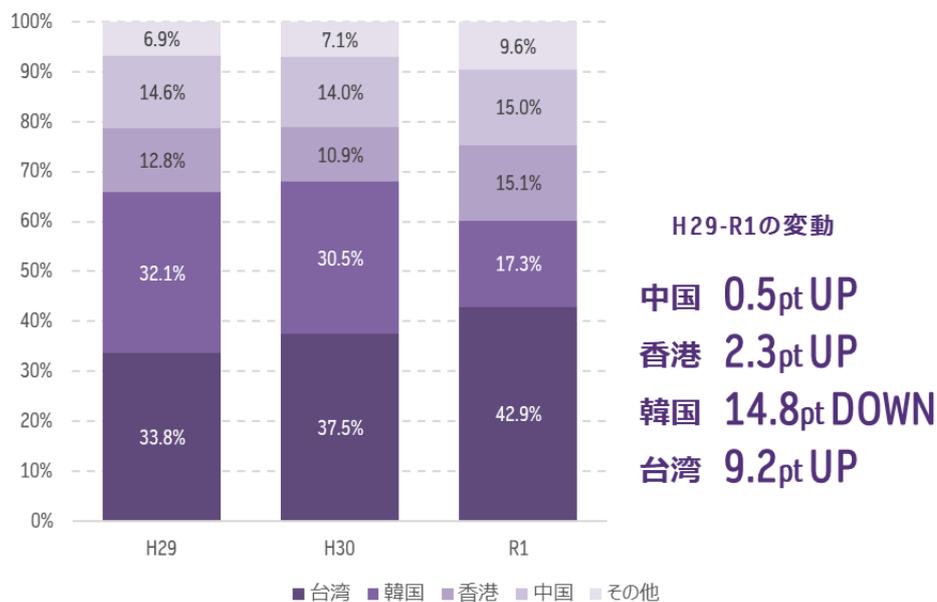
平成 25 年度以降、前年度までの景気低迷や災害の影響による低調期から再び増加に転じ、平成 30 年度には過去最高の 1,000 万 4,300 人となりました。しかし、令和元年度は、新型コロナウイルスの影響により 946 万 9,200 人と減少に転じ、令和 2 年度は 258 万 3,600 人と大きく減少し、昭和 63 年度に次ぐ低水準にまで落ち込みました。感染症の影響が収束し始めた令和 4 年度においては、677 万 4,600 人と 10 年前の水準まで回復しました。



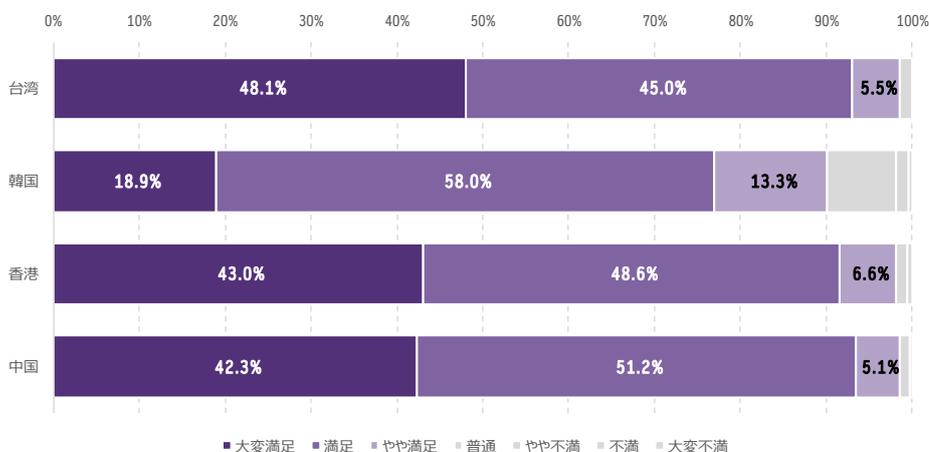
図表 9 入域客数の推移 (H25～R4、観光統計実態調査)

外国人観光客数は、東アジア各地からの定期航空路線の開設や相次ぐクルーズ船の就航などにより、平成 25 年度以降急速に増加し、平成 30 年度は過去最高の 300 万 800 人となった一方で、国内観光客と同様に、令和元年度は 249 万 400 人と減少に転じ、令和 2 年度は皆減となり復帰後初めて外国人観光客が 0 人となりました。令和 4 年度には、国際線の運航再開やクルーズ船の運航開始により 20 万 100 人の来訪がありました。

コロナ禍前の傾向を国別にみると、台湾、韓国、香港、中国の順に多く、とりわけ台湾や香港での伸び率が高く、韓国の割合が減少しています。



図表 10 沖縄県における外国人観光客数の国別構成比及びその変遷 (R1、外国人観光客実態調査概要報告)

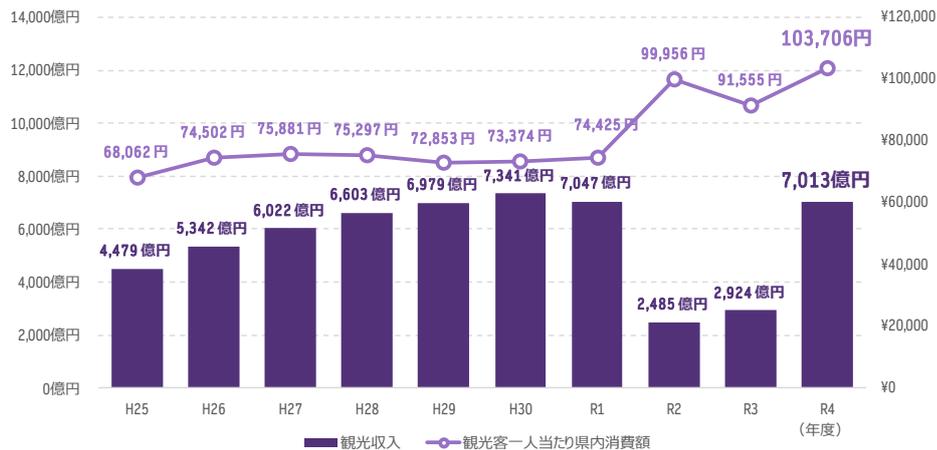


図表 11 沖縄県における外国人観光客満足度の国別構成比 (R1、外国人観光客実態調査概要報告)

## イ観光収入の推移

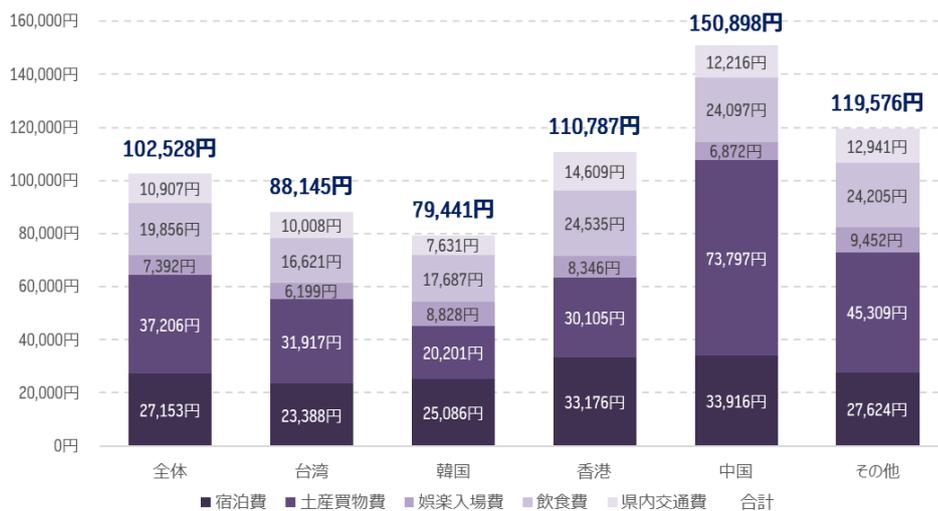
観光収入は、入域観光客数の増加に比例して増加してきました。景気低迷等の影響を受けた時期もあったものの平成 25 年度以降は、入域観光客数が大幅に増加し、平成 30 年度は過去最高の 7,341 億円となっています。

また、観光客一人あたりの県内消費額は、平成 23 年度に7万円を割り込み、以降は6万円台で推移し、平成 26 年度に再び7万円を越え、令和元年度まで横ばいに推移していましたが、令和2年は GoTo キャンペーンの効果もあり、約 10 万円と大幅に増加し、以降も高止まりしています。



図表 12 観光収入の推移 (H25～R4、観光統計実態調査)

国別に単価をみると、中国人観光客の消費単価が最も多く、特に土産買物費において突出して高い状況です。次点の香港は、土産買物費以外で概ね中国と同様の水準にあります。

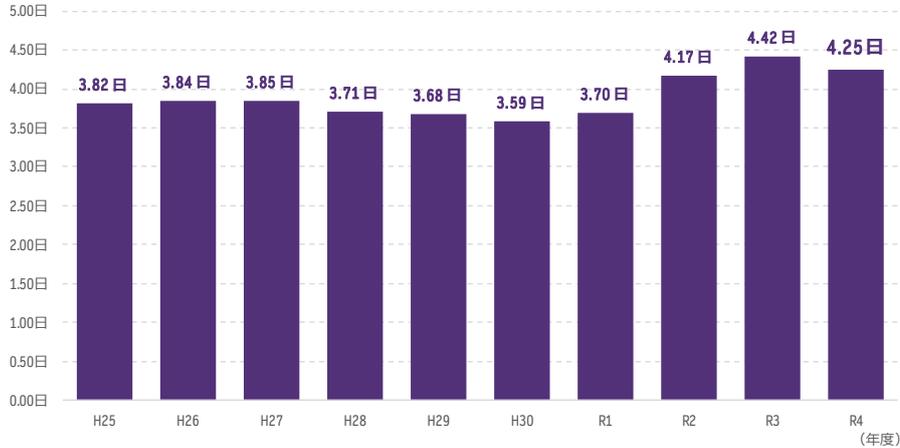


※費目「その他」は全て100円以下でありデータラベル省略しているため棒グラフの合算と棒グラフ上のデータラベルと一致しない

図表 13 国別観光消費額単価 (R1、外国人観光客実態調査概要報告)

## ウ 滞在日数の推移

入域観光客の平均滞在日数は、過去 30 年間で減少傾向にあります。国内客は 3.7 日前後で近年は横ばいでしたが、令和 2 年は GoTo キャンペーンの効果もあり、4.17 日と増加し、翌年以降も 4 泊台を維持しています。

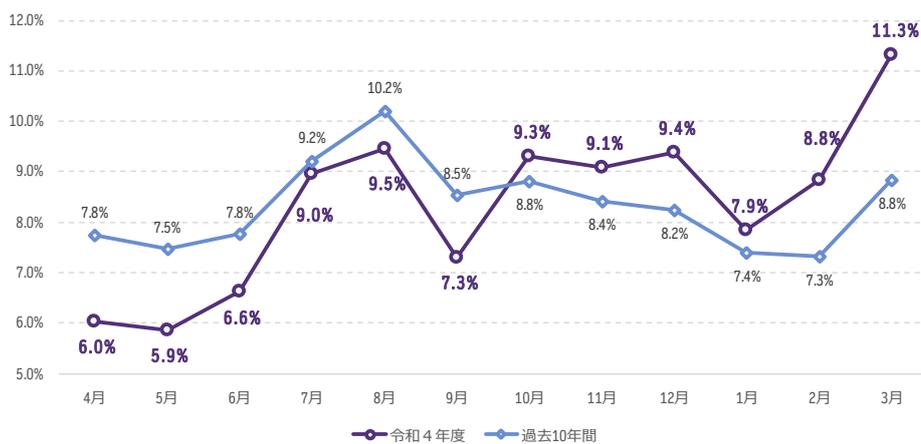


図表 14 平均滞在日数の推移 (H25～R4、観光統計実態調査)

## エ 入域観光客の季節変動

平成 25 年度以降の 10 年間のデータの平均をみると、8 月をピークとしたやや夏季偏重の傾向にあることがわかります。

直近の令和 4 年度 1 年間分のデータをもても、感染症の収束傾向が強まった年度後半に高まりがみてとれるものの、1 年を通じての推移は過去 10 年間の平均と概ね同様の偏重傾向となっています。



図表 15 月別観光客数 (H25～R4、観光統計実態調査)

## (2) 沖縄県における観光政策

### ア 過去計画の検証（観光関連の指標の状況）

第5次沖縄県観光振興基本計画の目標に対する、令和2年度の観光収入及び観光客一人あたり消費額の試算値、平均滞在日数、人泊数、入域観光客数総数それぞれの達成率は、観光収入が 22.6%、観光客一人あたり消費額が 107.5%、平均滞在日数が 92.7%、人泊数が 19.5%、入域観光客総数が 21.5%となっています。

観光収入、入域観光客数及び人泊数は順調に伸びてきていましたが、令和元年度から新型コロナウイルス感染症の影響により2年連続で減少となりました。

一方、GoTo キャンペーンなどの効果により、観光客一人あたり消費額（試算値）及び平均滞在日数は令和2年度には増加に転じ、観光客一人あたり消費額（試算値）は目標を上回っています。

### イ 新・沖縄 21 世紀ビジョン基本計画での観光の位置づけ

新・沖縄 21 世紀ビジョン基本計画は、これまでの沖縄振興分野を包含する総合的な基本計画であって、平成 22 年3月に策定した「沖縄 21 世紀ビジョン」にかかげる県民が望む将来像の実現に向けた行動計画であり、SDGsの達成に寄与することを求めつつ、沖縄振興の基本方向や基本施策等を明らかにするものです。

本計画において、観光施策は、「3希望と活力にあふれる豊かな島を目指して」の中で、「(2)世界から選ばれる持続可能な観光地の形成と沖縄観光の変革」、「(6)沖縄の優位性や潜在力を生かした新たな産業の創出」、「(9)世界にはばたき躍動する「スポーツアイランド沖縄」の形成」などに取り組むこととされており、沖縄経済を牽引するリーディング産業として、SDGs、ICTの進化、感染症等の多様なリスクなど、外部環境の変化に適応するとともに、豊かな自然環境や伝統芸能、空手など国内外の人々が求める沖縄のソフトパワーを生かし、世界から選ばれる持続可能な観光地の形成を目指すこととされています。



図表 16 沖縄 21 世紀ビジョンにおける主な観光施策

## ウ 沖縄県観光振興基本計画の主要施策

「世界から選ばれる持続可能な観光地」という将来像の実現に向け、6つの基本施策、30の施策展開、85の施策が整理されています。

＜将来像＞世界から選ばれる持続可能な観光地	
安全・安心・快適で SDGsに適應した 観光地マネジメント	危機管理体制の見直し・強化
	県民生活・社会と調和の取れた観光振興の実現
	サステナブルツーリズムの推進
	レスポンスブルツーリズムの推進
	ユニバーサルツーリズムの推進
多彩かつ質の高い 観光に向けた DXの推進	安定的な財源の確保と推進体制の構築
	ターゲットマーケティングと効率的なプロモーションの推進
	デジタル化・観光DX・ICTの活用による利便性の向上
	外国人観光客への対応強化
沖縄のソフトパワーを 生かしたツーリズムの 推進	観光収入の確保と経済効果の発揮
	自然を活用したツーリズムの推進
	文化・伝統・芸能を活用したツーリズムの推進
	地元の食材等を活用した食と土産品の品質向上
	マリンタウン MICE エリアの形成を核とした戦略的な MICE の振興
	教育旅行・交流の推進
	空手ツーリズムの推進
	スポーツツーリズムの推進
	沖縄の温暖な気候を活用したツーリズムとウェルネス ツーリズムの推進
	質の高いクルーズ観光体験の推進
カップルアニバーサリーツーリズムの展開	
基盤となる 旅行環境の整備	ICTを活用した新たな観光コンテンツの推進
	空港
	港湾
	観光二次交通
	宿泊施設
脱炭素・ グリーンリカバリーへの 積極的な対応	拠点整備
	沖縄らしい風景づくり
人材育成と人材確 保の推進	質の高いサービスを提供できる観光人材の育成・確保
	観光業界における雇用環境の改善

図表 17 沖縄県観光振興基本計画の施策体系

## エ 沖縄観光推進ロードマップを活用した施策の進捗管理

沖縄観光推進ロードマップは、第5次沖縄県観光振興基本計画の目標値である観光収入 1.1 兆円、入域観光客数 1,200 万人等の達成に向けて、中長期的、段階的に誘客や受入環境整備等の施策を推進するための工程表として平成 26 年度に策定されました。

毎年度、各種施策の進捗等について、民間及び行政の関係機関が緊密に連携し、状況の共有を図りながら取り組むとともに、平成 28 年度には国、県、空港、港湾、主要観光関連団体で構成される「沖縄観光戦略実行会議」を立ち上げ、その中で施策毎に設定された推進幹事による検討会議において進捗管理が行われてきました。

第6次沖縄県観光振興基本計画で設定される目標値の達成状況についても、引き続きロードマップを活用して、施策の KPI の進捗管理等を行うものとされています。

### 4 基本施策に係る主な施策・取組と成果指標①

#### 【基本施策】(1)安全・安心・快適でSDGsに適応した観光地マネジメント

＜主な施策＞		＜成果指標＞			
ウ-② サステナブル・ツーリズムの推進	(施策の方向) 過剰な開発や不適切な開発等によって地域社会や経済に悪影響が及ばないよう、各地域において、地域や離島エリア別のキャパシティを考えたうえで、需要と供給の両面から受容できる一定の量の定義設定を行い、観光客の分散や制限を図りながら、県民、観光客、事業者に応じたサステナブルツーリズムを推進する。	基準値 (R3年度)	R6年度 目標値	R9年度 目標値	R13年度 目標値
		持続可能な観光を推進するための取組が行われていると感知した割合	40.7%	50.0%	60.0%
		＜主な取組＞ <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 持続可能な観光地の形成(サステナブルツーリズム推進事業)</li> <li>➢ 自然環境に配慮した海岸の整備</li> <li>➢ 自然環境の保全利用協定の締結推進</li> </ul>			
＜主な施策＞		＜成果指標＞			
エ-③ レスポンシブルツーリズムの推進	(施策の方向) 観光と地域の共存・共生に向けた新たなコンセプトとして、レスポンシブルツーリズムが国際的な広がりを見せており、本県においては、世界文化遺産である琉球王国のグスク及び関連遺産群に加え、令和3年7月に沖縄島北部及び西表島が世界自然遺産に登録されたことから、これまで以上に、自然環境や生活文化などへの影響を軽減する必要があるため、観光客に対して“責任ある旅行者”としての行動を促す取組を推進する。	基準値 (R3年度)	R6年度 目標値	R9年度 目標値	R13年度 目標値
		観光客が増えることにより、「文化資源や自然資源が保存・継承されると思っている県民の割合	13.9%	23.9%	33.9%
		＜主な取組＞ <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 持続可能な観光の推進にかかるセミナーの実施(サステナブルツーリズム推進事業)</li> <li>➢ 住民生活や自然環境への配慮等に関する周知啓発</li> </ul>			

図表 18 ロードマップの例（沖縄観光推進ロードマップ）

## 成長力ランキング上位の市

本市は、沖縄本島南部に位置し、北は県都の那覇市に隣接、東は南風原町、八重瀬町、南は糸満市に隣接しています。

全国の市を対象に集計された「全都市/成長力ランキング」において、常に上位にランキングされています。

特産物としてマンゴー、トマトなどが栽培されています。さらに、サトウキビの葉、穂を染料とした「ウージ染め」が開発され、本市の名産品として販売されております。



### < 豊見城市の〇〇 >

#### 【市花：ブーゲンビレア】

ブラジル原産のつる性花木で、茎に刺があります。花の色は、赤、紫、白、混色と多彩で、1年を通して開花しますが、晩秋から3月頃までが最盛期です。



本市の市花としては、制定に際して行われた住民アンケートの意見を基に、赤系統の鮮やかな色が、未来に限りなく伸びゆく豊見城の情熱を象徴するに最もふさわしい花として、昭和56年11月1日に制定されました。

また、市花と同様に市内において植栽を奨励する奨励花としては、ハイビスカスとサンダンカが制定されています。

#### 【市木：リュウキュウコクタン】

県内及び市内においても庭園樹として広く栽培されており、黒光りする艶と堅い材質から、沖縄では古くから三線の棹や家屋の木材として使用されてきました。樹皮は帯黒褐色、葉は全緑の硬い革質で倒卵状楕円形、種子は楕円形で赤紅色に熟します。



本市の市木としては、制定に際して行われた住民アンケートの意見を基に、豊見城の発展を担う住民のたくましい力を象徴するに最もふさわしい木として、昭和56年11月1日に制定されました。

また、市木と同様に市内において植栽を奨励する奨励木としては、ハウオウボクが制定されています。

#### 【市鳥：クロツラヘラサギ】

朝鮮半島北西部と中国東北部で繁殖し、日本、台湾、ベトナムなど東アジア及び東南アジアで越冬します。日本では九州と沖縄が主要な飛来地です。市内では、ラムサール条約登録湿地の漫湖、三角池、豊崎干潟などで見ることができます。



本市の市鳥としては、制定に際して行われた市民等アンケートの意見を基に、本市が県内における重要な飛来地であり、毎年観察できる身近な鳥であるとともに本市の水辺の自然が象徴される最もふさわしい鳥として、令和5年2月1日に制定されました。

# 第 2 章

---

## 豊見城市観光の現況

- 
- 01 豊見城市観光の近況
  - 02 前計画における取組のふりかえり
  - 03 その他特筆すべき傾向

# 01 豊見城市観光の近況

## (1) 上位関連計画における観光の位置づけ

### 第5次豊見城市総合計画（令和3年3月）

まちづくりのテーマ(将来像)「Welcome な思いでハートがつながり みんなで彩るまち とみぐすく」を掲げています。

観光・リゾート産業の振興において、国内外の観光客が多く訪れ、市の地域資源(景色、文化等)を堪能して市のファンになってもらうとともに、観光関連施設の利用による消費拡大を図ることとしており、「観光振興体制の充実」「観光プログラムの充実」「観光情報発信、PRの強化」を取組に位置付けています。

観光に関する記載
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 水産業や企業立地における観光業との連携</li><li>・ スポーツコンベンションの誘致に向けた取組・環境整備を位置付け</li><li>・ 地域文化の振興にあたり、市の文化財や歴史資料を市民・観光客等に公開・活用できるよう、歴史・文化・学術に出会う「入口」として地域を学ぶ拠点整備を検討</li><li>・ 旧海軍司令部壕など、公開されている戦跡を活用し、市民や観光客へ「平和」の啓発</li><li>・ 環境保全において、漫湖水鳥・湿地センターを中心に自然環境の適切な保全及び活用を図るべく、海軍壕公園、空手会館、工芸の杜等と連携し、観光ルートとして相乗効果を得られる仕組みづくりの検討</li><li>・ 市民・市内従業者・観光客の利便性向上を図るべく、公共交通サービスの維持・充実を図る</li></ul>

### 都市計画マスタープラン（平成29年3月）

「ひと・まち・みどりが調和する誰もが暮らしやすい都市」という将来像を掲げています。瀬長・与根・豊崎の西海岸地域においては、「豊かな海洋資源と広域交通を活かした、海洋リゾートと新しい産業を発信する地域づくり」を地域の基本目標に、豊崎西部にはホテルや商業施設などの観光関連施設の集積、瀬長島には自然と調和する観光関連施設の整備促進、与根漁港では漁業の営みと共存する観光資源の開発、豊崎の人工海浜にはレクリエーション関連施設の充実など、それぞれ土地利用の方針が定められています。

また将来都市構造として以下の観光に係る拠点が設定されています。

緑の拠点	瀬長島/漫湖/豊見城総合公園/豊見城城址/海軍壕公園
歴史・文化拠点	豊見城城址一帯/海軍壕公園/保栄茂グスク一帯/長嶺グスク一帯
海洋レクリエーション拠点	瀬長島/豊崎海浜公園

## 豊見城市総合交通戦略（令和4年3月）

豊見城市交通基本計画で掲げた基本理念「Welcome な思いでハートがつながり みんなで彩るまち とみぐすく ～持続可能な交通まちづくりを目指して～」のもと、3つの将来像および4つの基本方針を踏まえ、各個別施策を定めています。

観光振興に係る個別施策として、「交通結節点の整備の推進」「MaaSをはじめとする新たなモビリティサービスの活用の推進」「自転車利用に関する取り組み・整備の推進」などを位置づけています。

## 景観計画（平成29年9月）

将来像を「愛着と誇り みんなで育みつなぐ わったあ～豊見城の景観まちづくり」と定めています。

市街地（観光地域）で、「美しい海などの自然環境を活かした観光に特化した景観まちづくりを目指します」と方針を定め、以下のように景観形成を図っています。

瀬長島一帯	水辺景観の保全、植物を活用した緑化など、質の高い景観の形成
与根一帯	都市施設やレクリエーション施設は海への眺望景観を活かす、大規模施設は周辺に配慮した景観形成
豊崎一帯	水緑豊かなオープンスペースにより市民や多くの来訪者が散策や憩いを楽しめる空間づくり、交流施設や商業施設または観光拠点等は来場者を迎えるホスピタリティと賑わいを創出
豊見城城址一帯	豊見城城址跡地は水と緑に囲まれた歴史的雰囲気形成を目指した景観整備、海軍壕公園は展望台を視点場として活用

## 地域防災計画（平成 31 年 4 月修正）

本市の特殊性等を考慮した重要事項のうち、観光客や外国人の避難誘導について以下のように定めています。

- ・ 地震が発生した場合、市街地、海岸、観光施設等にいる多数の観光客の避難誘導が必要
- ・ 航空機が停止した場合には、観光客が市内に滞留することも予想される
- ・ 観光客等の安全を確保するため、県、市、観光協会、観光施設及び宿泊施設等の関係者が連携して、観光客や外国人への避難情報の提供、避難誘導、帰宅支援体制を整備
- ・ 地震発生から津波到達時間内に避難できるように、次のような津波避難対策を進めるほか、歴史上最大クラスの津波についても可能な限り対策を講ずる

- (1) 観光施設、宿泊施設等における観光客、外国人等の避難誘導體制の整備
- (2) 海拔高度図を活用した、観光施設等への標高や津波避難場所・ルート等の標識設置
- (3) 滞留旅客の待機施設等の確保

## 森×風 Spo-Park 構想（令和 6 年）

将来像「スポーツでつなぐ ひと・にぎわい・みどり彩る 響むまち」と定め、基本方針のうち公園・スポーツ環境としての在り方においては「国内外から誘客可能なスポーツツーリズム拠点」を位置付けています。また、導入機能イメージとして、大型スポーツコンベンションが開催可能な設備を想定しています。



図表 19 水戸ホーリーホックの選手たちによるサッカー教室の様子（本市 HP）



## しおさい公園でキャンプやBBQが楽しめるように？

本市では、令和4年3月に改訂した「豊見城市公共施設等総合管理計画」に基づき、統合、廃止及び長寿命化や耐震化などの検討、自主財源の確保や施設の維持管理・運営コストを抑制しつつ、サービスの質を向上させる PFI・PPP 等の民間活用の導入や市有地への民間企業誘致などの公共施設マネジメントを推進しているものの、出生率の高さを背景とする子育て関連施策や社会保障制度におけるサービスの多様化と扶助費の増加に加え、学校建設や公園整備事業等、今後も旺盛な行政需要が見込まれます。

これらを踏まえ、今後の旺盛な行政需要に対応すべく、民間事業者の創意工夫等を最大限活用し、市民サービスの向上、地域経済の活性化及び財政負担の軽減を図り、第5次豊見城市総合計画で掲げた将来像の実現のため、「民間提案制度」の導入に向けた試験的運用を行っています。

例えば、令和5年度に募集した「しおさい公園活用事業」では、BBQ やキャンプ、パークゴルフなど市民や公園利用者の利便性の向上に資する事業のアイデアやノウハウを民間事業者から募集しました。

この制度は現在試験的導入ですが、今後定着すれば、観光振興施策等にも民間活力が導入されていくことも期待されます。

### MEMO

**「民間活力導入制度」**とは、民間事業者の創意工夫等を最大限活用し、公共サービスの向上、地域経済の活性化及び財政負担の軽減等を目的に、民間事業者等から事業提案を募集し、予算措置等の条件が整った場合に民間活力を導入して事業化する制度です。

## (2) 新たな観光資源

### ア 大型商業施設の開業

平成 27 年より瀬長島内の傾斜地を活用した「瀬長島ウミカジテラス」がオープンし、現在多くの観光客が訪れる一大スポットとなっています。また、令和 2 年には、豊崎において大型商業施設「イーアス沖縄豊崎」がオープンし、同施設内のDMMかりゆし水族館にも市内外から多くの来訪者が訪れています。



図表 20 (左) イーアス沖縄豊崎 (本市 HP)  
(右) DMM かりゆし水族館

### イ 大型ホテルの開業

瀬長島では、令和6年春開業する「STORYLINE 瀬長島」(東急ホテルズ&リゾート株式会社)や令和8年開業予定の瀬長島ホテル増床計画(リゾート琉球株式会社)、豊崎で建設予定の「インターコンチネンタル沖縄美ら SUN リゾート」(嘉新琉球開発合同会社)など、市内に大型ホテルの開業が予定されており、予てより本市の課題であった通過型観光からの脱却に寄与するものと考えられます。なお、前述の国の観光政策の通り、観光施設における心のバリアフリー認定制度の導入によりユニバーサルツーリズムが推進されているため、市内で開業・整備されるホテルにも、同様の取組みが求められます。



図表 21 STORYLINE 瀬長島のイメージ (東急株式会社より提供)

## 瀬長島の観光振興は次のフェーズへ

豊見城市発祥の地とされている瀬長島は、平成 25 年 2 月に「瀬長島観光拠点整備計画」(以下、同計画とする。)による沖縄振興特別推進市町村交付金の活用を前提とした短期間で実現可能な整備を進めた他、官民が連携した同島の利活用推進により、多くの来島者で賑わう魅力的なスポットとして発展を遂げました。

コロナ禍を経た現在、令和 6 年春に開業する「STORYLINE 瀬長島」や令和 8 年開業予定の瀬長島ホテル増床計画等の民間による開発意欲が高まっている一方で観光客等の増加に伴う交通課題が浮き彫りになっています。

今後、瀬長島の魅力を維持しながら観光拠点として発展させるために、同計画で今後の課題として示しているマリンスポーツ、海洋レジャーなどの民間活力についての検討や交通課題解決に向けた島内施設の立地適正を踏まえた観光拠点機能強化等の取組みと令和 5 年度に策定するスポーツ施設の集約を踏まえた「森又風 Spo-Park 構想」との連携等により瀬長島の観光は次のフェーズへ進むことが期待されます。



図表 22 瀬長島ウミカジテラスの夜景

## ウ 県内大手企業の移転

県内大手飲料メーカーであるオリオンビール株式会社が、豊崎の商業施設（TOMITON内）に本社機能を移転しました。これに伴い、同社は豊崎美らSUNビーチのネーミングライツを取得し、令和2年11月から令和5年10月までの3年間において、「オリオン ECO 美ら SUN ビーチ」の愛称で市民や観光客に親しまれました。

## エ 新たな拠点の創出

既存の豊見城総合公園および周辺のエリアにおいて、スポーツやウェルネス、ビジネス等の機能を含めた森又風 Spo-Park 構想の策定を進めています。本構想が実現すると、今後、プロやアマチュアスポーツの合宿・キャンプをはじめ、スポーツ大会やイベントなど、大型スポーツコンベンション開催等の拠点性が高まります。

## オ 新たな公共交通システム導入検討の推進

次世代交通システムである自走式ロープウェイ「Zippar(ジッパー)」を開発する「ジップインフラストラクチャー」と交通及び観光分野を中心とした連携協力協定を令和5年度に締結しました。今後、本市で次世代交通システムの導入が実現した際には、新たな観光資源として評価されるだけでなく、市内の渋滞緩和等に貢献する事が期待できます。



図表 23 Zippar のイメージ

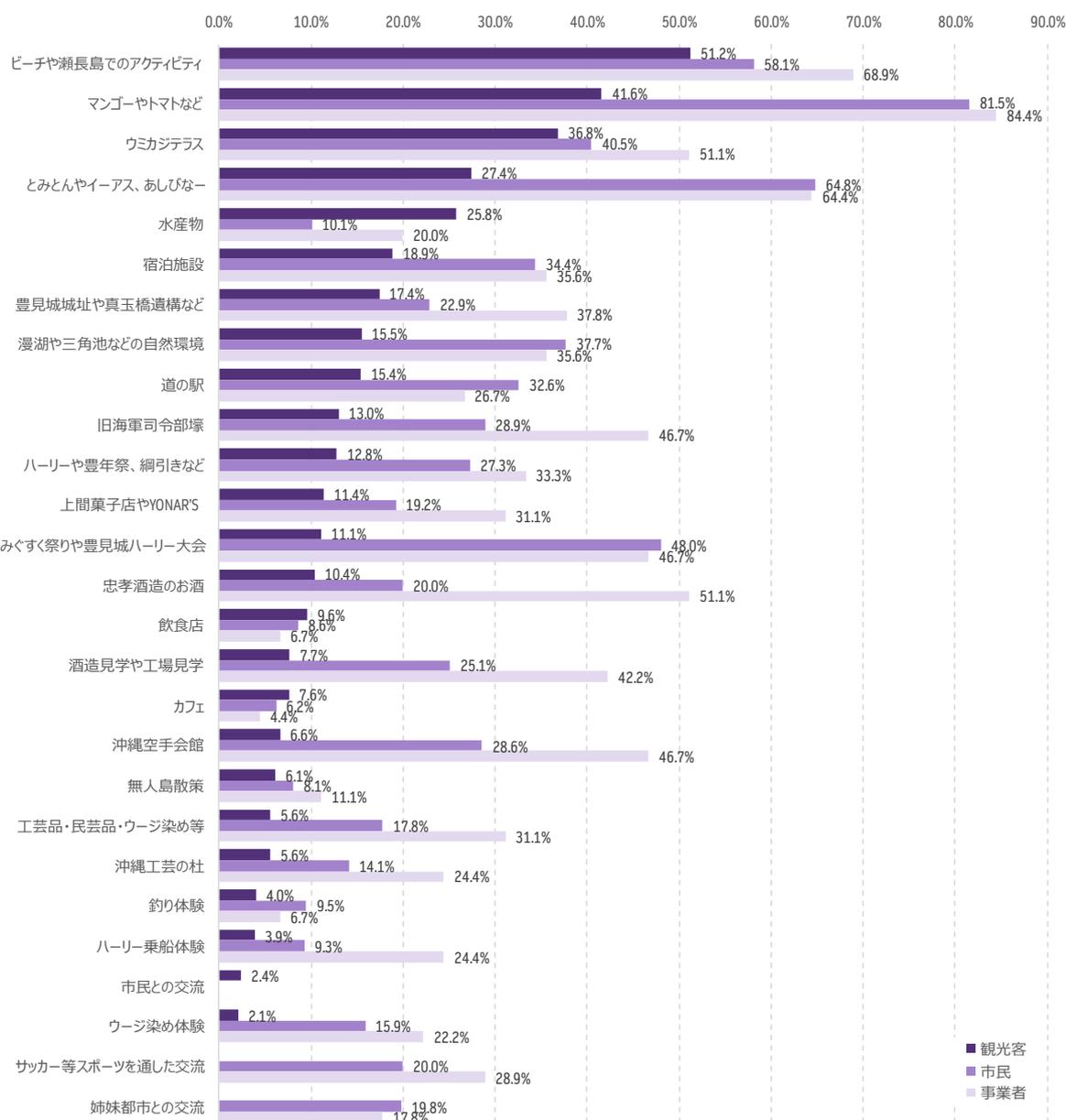


## 意外？妥当？水産物は観光客のほうが高く評価

観光において、地域のオススメが観光客には伝わっていなかったり、逆に地域の人々が当たり前と感じていることが観光客から高い評価を受けたりというような意識の差異が生じることは珍しくありません。

観光客アンケートにおける「本市の魅力」と、市民アンケートにおける「お気に入り」、事業者アンケートにおける「本市の売り」を比較してみると、多くの項目で事業者＞市民＞観光客という順で好意が高くなっていることから、「好きであること」の前提として「よく知っていること」が必要であることがわかります。

そのような中で、「水産物」「飲食店」「カフェ」では観光客の好意が上回っており、とりわけ「水産物」は大きく上回っています。一方、同じ1次産品でもマンゴーやトマト等の農産物は住民の半分程度の評価となっています。その他、ショッピングモールやハーリー大会等も事業者・住民評価＞観光客評価の構図で大きな乖離が生じています。



## 02 前計画における取組のふりかえり

### (1) アウトプット評価

#### 目標1 わったー自慢のとみぐすく

3.10/5pt

「ものづくり教室<sup>1</sup>」の継続的な実施や、真玉橋の架橋500年を記念した講演会を開催するなど、地域の歴史文化への興味・関心・理解を深めてもらう機会を提供してきました。また、アゴマゴちゃんを始めとした観光大使によるSNSやイベントでの情報発信、観光拠点へのガイドブックの設置等により観光PRの強化を図ってきました。

一方、人材育成については、ガイド養成講座等を実施したものの、継続的な取組みに至っていません。

総じて、3つの基本目標のなかで最もスコアの高い進捗となっており、庁内職員・市民・事業者の評価は概ね一致しています。



真玉橋

施策	内容	評価 <sup>2</sup>		
		庁内	市民	事業者
市民意識の向上	ものづくり教室の充実や歴史文化が学べる講座等の充実により、市民自らが地域の自然・環境や歴史文化等の魅力を楽しみながら発見し、知ることで、地域に対する誇りを高め、自発的なおもてなし活動へとつながる意識の醸成を目指します。	3.0	3.3	3.1
人材や組織の育成	豊見城の魅力案内ができる人材や外国語対応が可能な人材の育成のほか、豊見城市観光協会の体制強化や継続的に観光振興の取組を担う組織の育成を目指します。	2.5	3.2	3.2
観光PRの強化	広告だけでなく、SNSの活用や多言語対応等により、豊見城市の自然景観、歴史・文化等の豊富な地域資源の情報を提供し、誰もが豊見城市の魅力を知り、そこに行くことができる状況を目指します。	3.0	3.5	3.1

<sup>1</sup> 旧 豊見城大学。豊見城市観光プラザていぐま館で開催される工芸品製作の体験教室。

<sup>2</sup> 中間評価を3とした5段階評価による。

庁内評価としては全ての施策で中間尺度である3pt を下回っており、3つの基本目標の中で最も低い水準となっています。

戦略産品であるマンゴー・トマトを活用した商品開発、瀬長島整備や空手会館・工芸の杜誘致等においては一定の成果が認められますが、その他で新型コロナウイルス感染症等の影響により進捗の滞りが発生しています。

一方で、観光拠点整備に関しては、市民や事業者は比較的高く評価しています。



ウージ染め

施策	内容	評価 <sup>3</sup>		
		庁内	市民	事業者
<b>多彩な観光プログラムの提供</b>	豊見城市の自然・景観や歴史文化等を活かした体験学習・交流など多彩な観光プログラムの提供や、次代を見据えた新たなツーリズムの育成を目指します。	2.2	3.4	2.9
<b>魅力あるモノづくり</b>	地域資源の発掘や創造により豊見城にしかないものを提供し、来てよかったまた来たいと思わせるような魅力あるモノづくりを目指します。	2.6	3.4	3.0
<b>観光拠点の整備充実</b>	西海岸地区をはじめとする新たな観光拠点の整備や既存施設を活用した観光拠点の整備・充実により、観光地としての充実を目指します。	2.5	3.5	3.4
<b>南部広域市町との連携</b>	教育旅行や民泊等の体験プログラムの受け入れ体制や南部地域の魅力を伝える観光情報の提供など、南部広域市町との連携した取組の充実を図ります。	2.0	3.2	2.9

<sup>3</sup> 中間評価を3とした5段階評価による。

## 目標3 さりげないおもてなしの雰囲気づくり 3.02/5pt

交通関連計画を策定し、今後の指針を示した他、レンタサイクルや駐車場整備等、実際の事業としても進めることができます。また、景観計画を策定し、風土に根付いた景観づくりを進めてきており、案内サインの多言語化を進めています。また、サインについては、避難サインの更新や防災マップのWEB掲載等安全・安心の提供に向けた取り組みができています一方、観光施設での救急救命講習の開催等、ソフト面での施策は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、あまり達成できていない状況です。



サンセット広場

「安全・安心」に関して、市民・事業者評価がやや高くなっていますが、サイン等市民の目に見える取り組みが実施できていることが要因と考えられます。

施策	内容	評価 <sup>4</sup>		
		庁内	市民	事業者
環境にも配慮した <b>交通インフラ</b> の充実	公共交通の充実により車でなくても市外からのアクセスや市内の周遊が容易となることや、電気自動車ハイブリット車への転換、レンタサイクルの導入等により環境にも配慮した交通インフラの充実を目指します。	3.0	3.2	2.7
観光地としての <b>雰囲気</b> づくり	地域特性に応じた景観づくりや地域をあげての美化活動、観光案内サイン等の充実により、観光客が観光地に来たと感じ、ここからの観光に期待を膨らませられるような、おもてなしが感じられる雰囲気づくりを目指します。	3.0	3.5	3.0
<b>安全・安心</b> の提供	多言語にも対応した防災情報の提供や観光施設における防災対策等、防災面での環境を整えることで、観光客への安全 安心の提供を目指します。	2.3	3.4	3.1

<sup>4</sup> 中間評価を3とした5段階評価による。

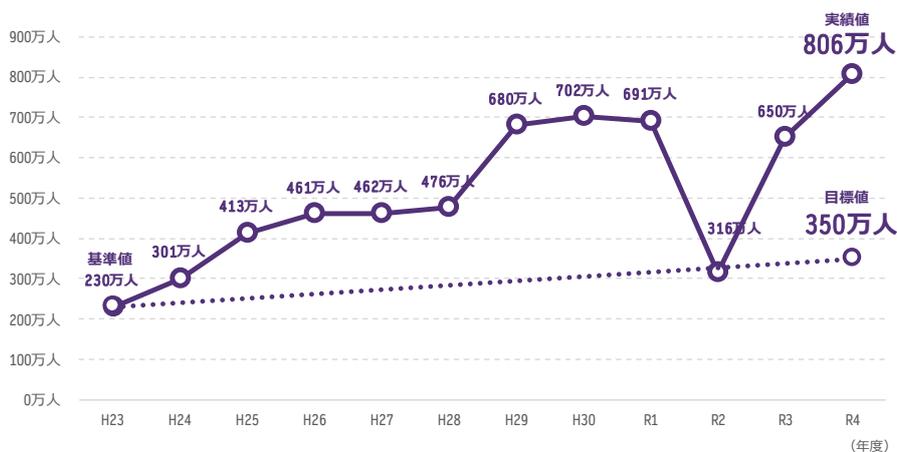
## (2) アウトカム評価

### ア 観光客数

達成率 **230%**

前計画における目標年次である令和4年度の観光客数は805万9千人と、目標値を倍以上に上回り達成しました。

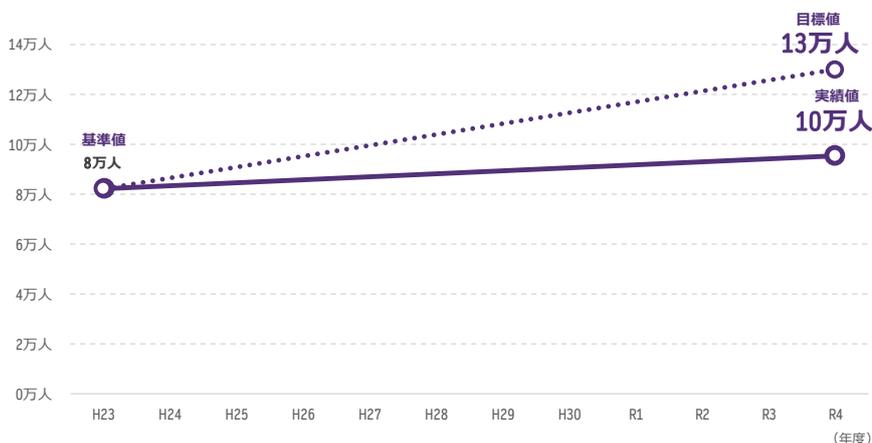
瀬長島や豊崎などの西海岸地区の開発により、瀬長島温泉ホテル、瀬長島ウミカジテラスやイーアス沖縄豊崎などの観光スポットが完成し、それを取り上げるメディアが増えたことから、観光客が増加したものと考えられます。



図表 24 観光客数の推移 (H23～R4、本市独自集計)

### イ イベントや体験プログラム参加者数 達成率 **73%**

新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の令和元年度のイベントや体験プログラム参加者数は95,351人と計画当初よりも増加したものの、目標値である13万人は達成できませんでした。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2・3年度は多くのイベント等が開催中止・延期せざるを得ない状況でした。



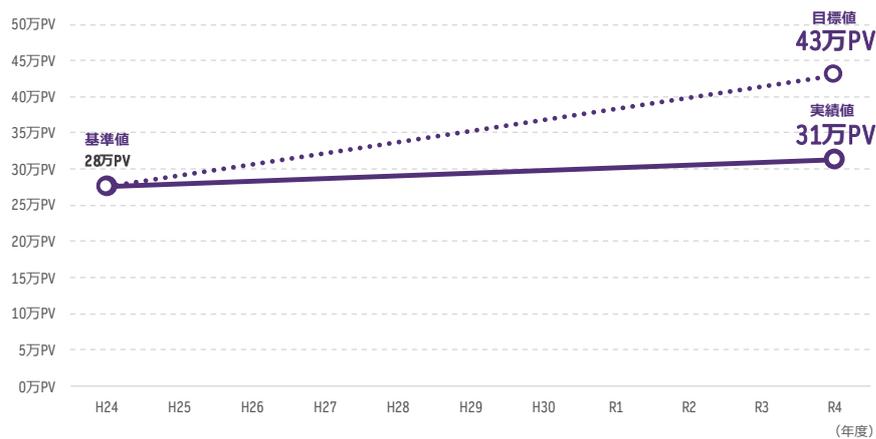
図表 25 イベント・体験参加者数の推移 (H23～R4、本市独自集計)

## ウ ホームページ等へのアクセス数

達成率 **73%**

前計画における目標年次である令和4年度の市公式ホームページの閲覧者は31万2,218件と計画当初よりも増加したものの、目標値である43万件は未達成となりました。

市公式ホームページとは別に、LINEやInstagram、Facebook等、他のSNSを用いて積極的に市のPRを行ったことや、他のメディアによる発信や市内観光施設ホームページ等へ観光客が直接アクセスしたこと等、本市のホームページ以外から観光情報を取得する観光客が増加したものと推測できます。

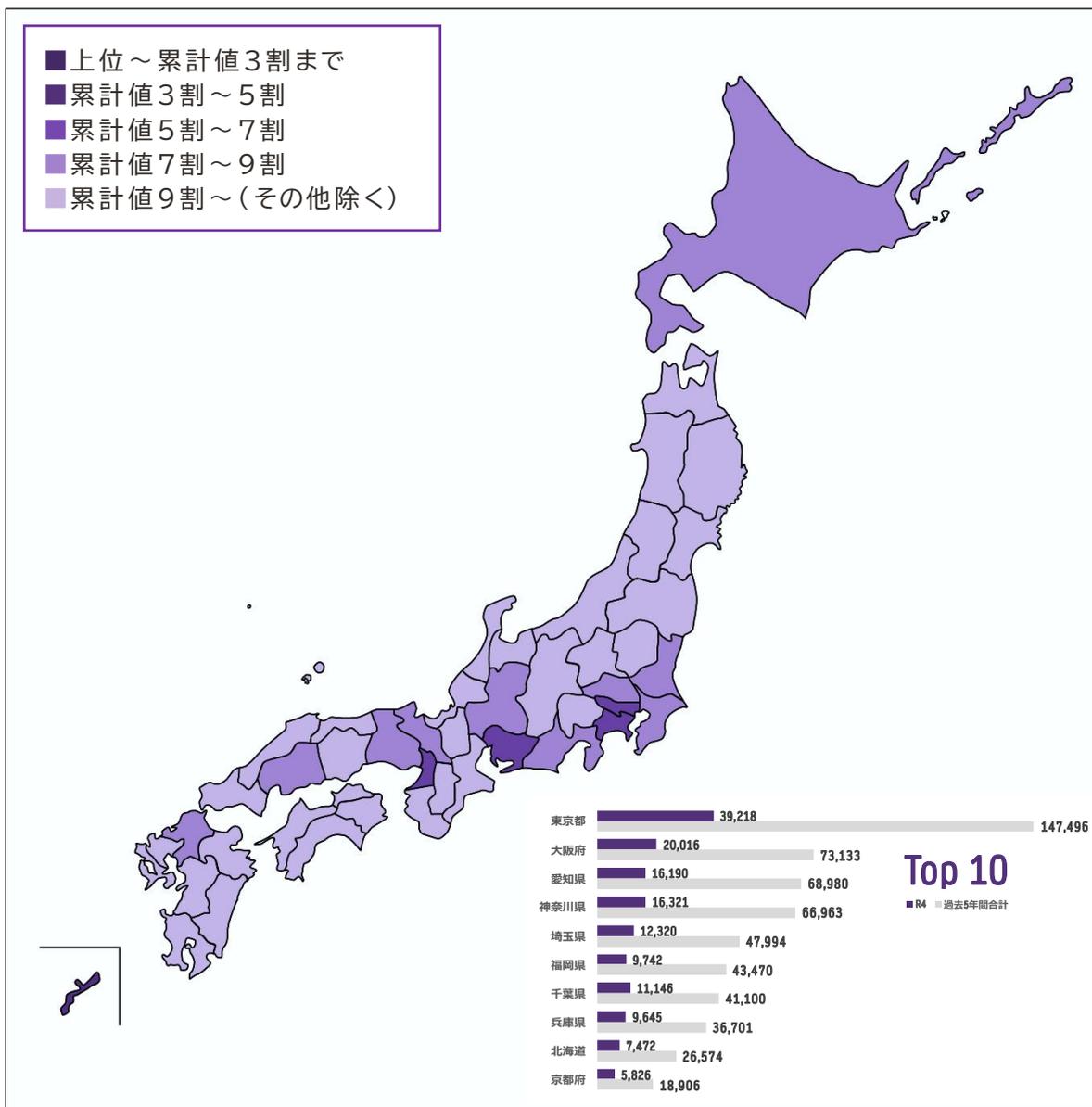


図表 26 ホームページ等へのアクセス数の推移  
(H24 - R4、本市独自集計)

## 03 その他特筆すべき傾向

### ア 人流

携帯電話の GPS データ<sup>5</sup>をみると、毎年全国各地から「瀬長島ウミカジテラス」に人が訪れています<sup>6</sup>。上位 10 地域をみても、人口規模ランキングと概ね一致することから、来訪者の居住地割合は人口規模に大きく影響を受けており、全国から偏りなく訪れられていると言えます。

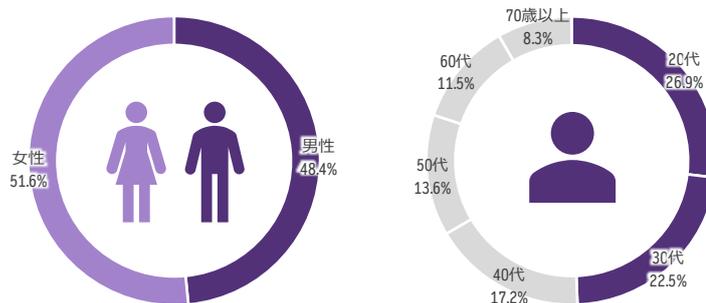


図表 27 GPS データからみる来訪者の居住地 (KLA)

<sup>5</sup> KDDI Location Analyzer。観光客アンケートによる行った場所・行く予定の場所  
で最も回答の多かった「瀬長島ウミカジテラス」を解析エリアとして、過去5か年度  
(平成 30 年度～令和 4 年度の 4/1～3/31) において、9:00～22:00 の時間帯に  
30 分以上滞在しているデータを抽出した。

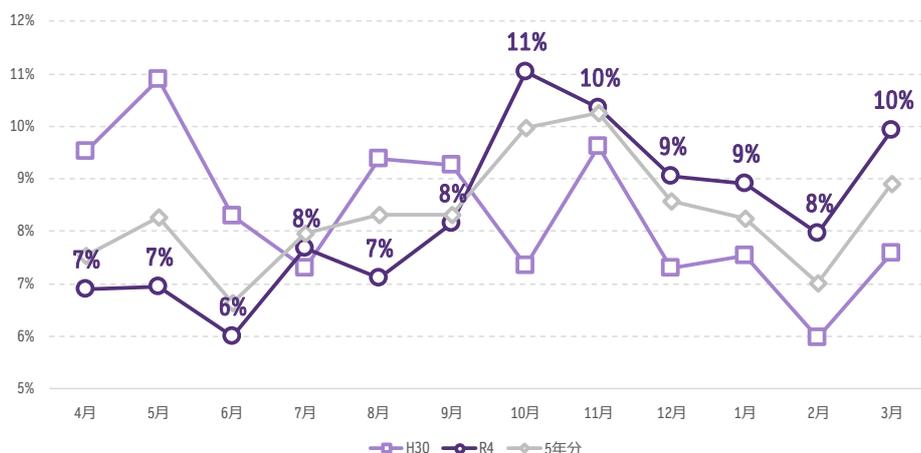
<sup>6</sup> 令和 3 年度のみ非来訪地域あり

来訪者の属性は、性別が同程度となっており、年代は 20 代および 30 代で 49.4%と約半数を占めています。



図表 28 GPS データからみる来訪者の性別・年代 (KLA)

過去5年の月別の来訪者数の偏重をみると、10月や11月、3月に来訪者数が多くなっており、感染症の影響が収束し始めた令和4年度も同様の傾向が見られました。一方で、新型コロナウイルス感染症の影響を全く受けていない平成30年度においては5月が最も高くなっている等、コロナ前、ウィズコロナ、アフターコロナの傾向の変化には引き続き注視する必要があります。



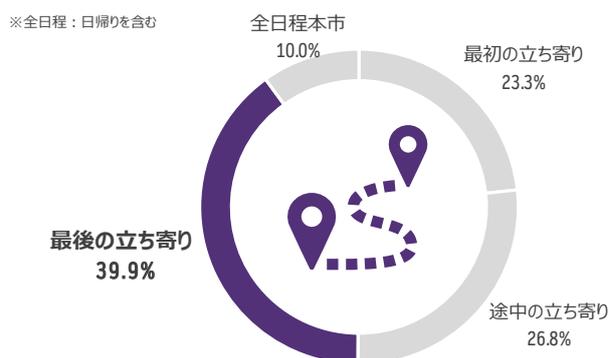
図表 29 GPS データからみる観光客数の月偏重 (KLA)

曜日別でみると、土曜日や日曜日にやや偏りがみられますが、概ね平日・休日ともに来訪されています。

月	火	水	木	金	土	日
13.9%	13.0%	12.5%	12.9%	12.9%	15.9%	18.9%

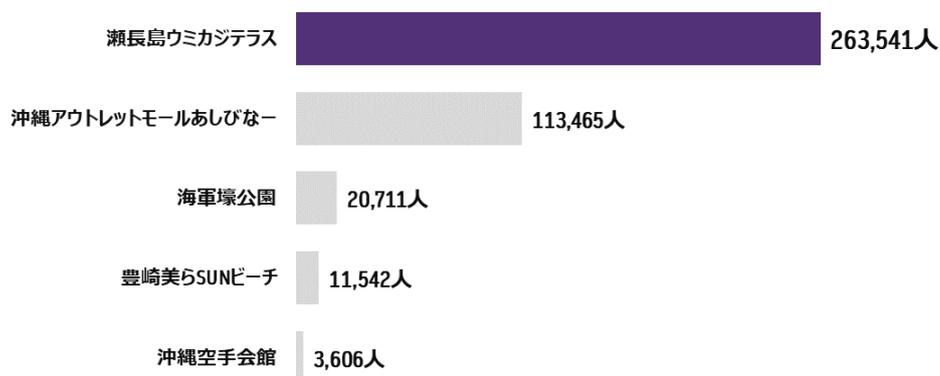
図表 30 GPS データからみる観光客数の曜日偏重 (KLA)

アンケート結果<sup>7</sup>から人流をみると、沖縄旅行中における本市への立ち寄りタイミングは、最終日に空港へ向かう際の訪問が最も多くなっています。



図表 31 本市への立ち寄りタイミング（観光客アンケート、R5）

上記、アンケート結果を踏まえ携帯電話のGPSデータを用いて起点を市内主要施設<sup>8</sup>、終点を那覇空港として解析した結果、瀬長島ウミカジテラスから那覇空港間への移動が最も多くなっており、沖縄旅行を締めくくる場所として多くの観光客が訪れていることがわかります。



図表 32 GPSデータからみる市内主要施設と空港の周遊状況（KLA）

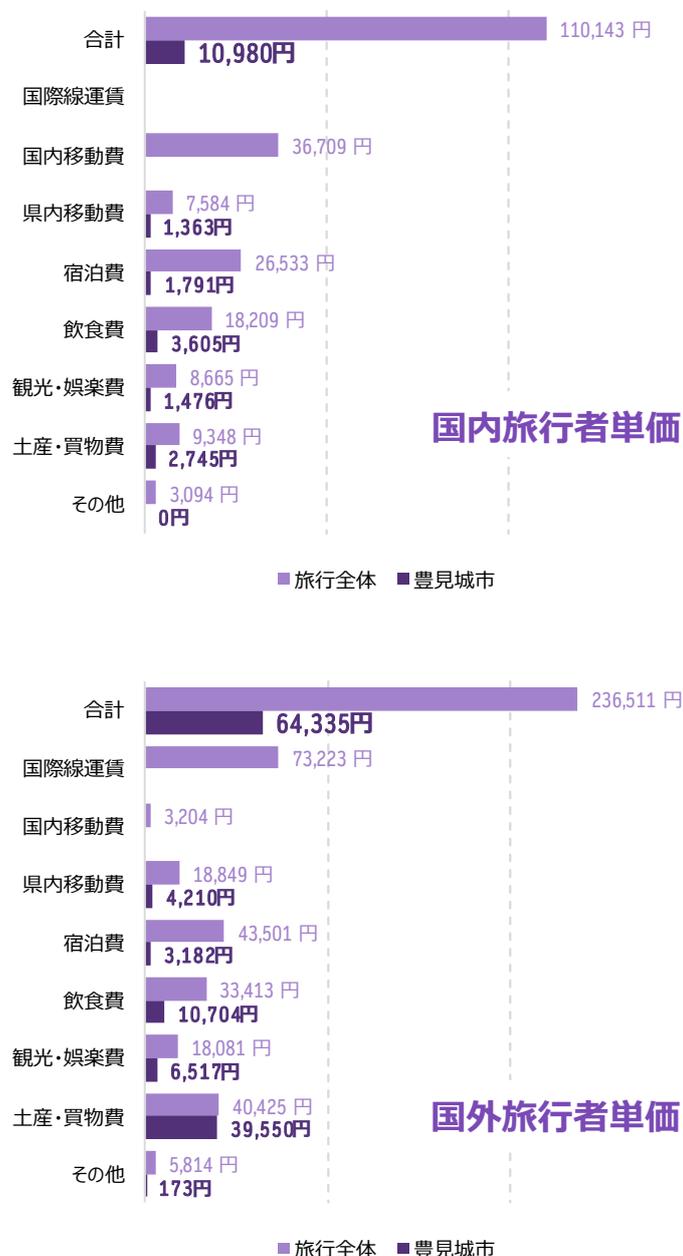
<sup>7</sup> 観光客アンケートのうち県内居住者を除いた集計。

<sup>8</sup> （瀬長島ウミカジテラス／沖縄アウトレットモールあしびなー／豊崎美らSUNビーチ／沖縄空手会館／海軍壕公園／）

## イ 消費額

本市での観光消費額単価は国内旅行者<sup>9</sup>で 10,980 円/人、国外旅行者で 64,335 円/人となっています。

費目別でみると、次ページに示すとおり、日帰り客が多いことから宿泊や飲食が低い傾向にあります。一方、国外旅行者における土産・買物費が極めて高く、特に国外旅行者においては旅行全体で使う土産・買物費のほとんどを本市内で消費している状況です。これらは、瀬長島ウミカジテラス、アウトレットモールあしびなーやイーアス沖縄豊崎などの大型商業施設の立地が影響したものと考えられます。



図表 33 費目別消費額単価（観光客アンケート、R5）

<sup>9</sup> 県内旅行者を除く

## ウ 平均滞在日数

本市での滞在日数は平均 1.3 日で、86%が日帰り観光客という状況です。

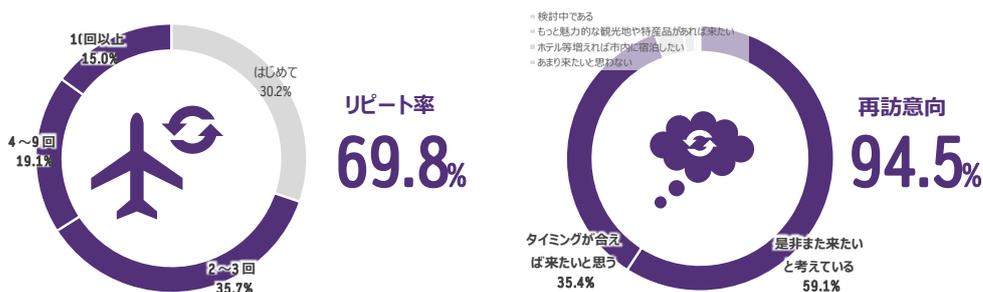


図表 34 滞在日数 (観光客アンケート、R5)

## エ リピーター率

本市への訪問が2回目以上であるリピーターの割合は約7割と高い水準にあります。

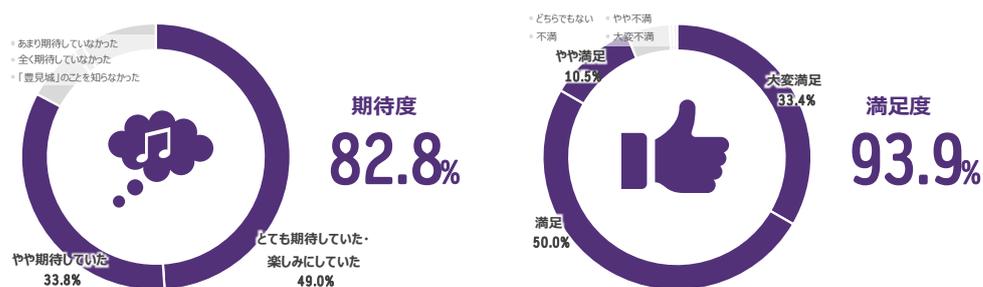
また、ほとんどの方が再訪意向を持っており、そのうち約6割が積極的な再訪意向を持っています。



図表 35 リピート率・再訪意向 (観光客アンケート、R5)

## オ 期待度・満足度

本市観光に対する来訪前の期待度と来訪後の満足度を比較すると、満足度が1割ほど上回っており、高い期待にしっかりと応えることができていると言えます。



図表 36 豊見城市観光に対する期待度・満足度 (観光客アンケート、R5)

# 第 3 章

---

## 将来像と目標

- 
- 01 豊見城市観光の将来像
  - 02 将来像を実現するための4つの目標
  - 03 将来像や基本目標に対応する指標

# 01 豊見城市観光の将来像

本市は県都・那覇市と隣接し、沖縄の玄関口である那覇空港からの距離も近く、また西日本最大のレンタカーステーションが立地し、沖縄旅行の起点となっていることから、**ウェルカムな思いで多種多様な観光客をお出迎えする精神性が肝要**です。

また、これまで本市の観光は、滞在時間が短い、いわゆる通過型観光であることが課題とされてきましたが、近年では瀬長島ウミカジテラスや沖縄空手会館、工芸の杜など、集客力のある拠点施設が増え、さらに今後は大型ホテルの開業が予定され、観光客が市内で過ごす時間が増えることが想定されます。

滞在時間の延長により、市内での観光客の消費行動が多様化すると、直接的な観光産業のみならず、広く産業全体に経済効果が波及し、**地域としての稼ぐ力が高まり、みんなで彩ることができるもの**と期待されます。

市民にとっても、観光客と交流する機会が増えることで、関係人口等、単なる交流人口に終わらない関係性が築かれ、**ハートのつながりが市外・県外・国外に広がっていく**ことも期待されます。

これらを踏まえると、上位計画である総合計画で掲げる

ウェルカム  
**「Welcomeな思いで ハートがつながり みんなで彩るまち とみぐすく」**

という将来像は、“観光まちづくり”においても踏襲すべきものと考えられます。



他方、「玄関口」というと、着陸の際に機内から眼下に見える美ら SUN ビーチや瀬長島等、沖縄旅行の始まりを演出する“入口”としてのイメージが先行しますが、お土産買物の消費額の高さを鑑みると、近年では、那覇空港へと引き揚げる前の瀬長島ウミカジテラス等で過ごす時間など、**沖縄旅行を締めくくる“出口”としての役割**の重要性も高まっているものと考えられます。

さらに、観光客アンケートによると、本市はリピート率と再訪意向の割合が高く、本市が“お出迎え”だけでなく帰りの立ち寄り地としても満足度の高い滞在時間を提供し、“お見送り上手”になることで、「また沖縄を訪れたい」「もう一度遊びに行こう」という沖縄観光全体に寄与できる可能性があります。

このように『旅のお見送り上手＝次回の旅のお出迎え上手』という“循環”により観光客のリピートを創出し、継続的に地域として観光収入を増やし、また稼ぐだけでなく、本市固有の文化や環境を維持・発展させていくための再投資を促し、よりよい豊見城市としていくための消費と投資の“循環”も構築し、持続可能な観光地の実現を目指していくことをサブテーマとし、本市観光の将来像を以下のように定めます。

## ウェルカムな思いで ハートがつながり みんなで彩るまち ～次の旅がより楽しみになる とみぐすく～



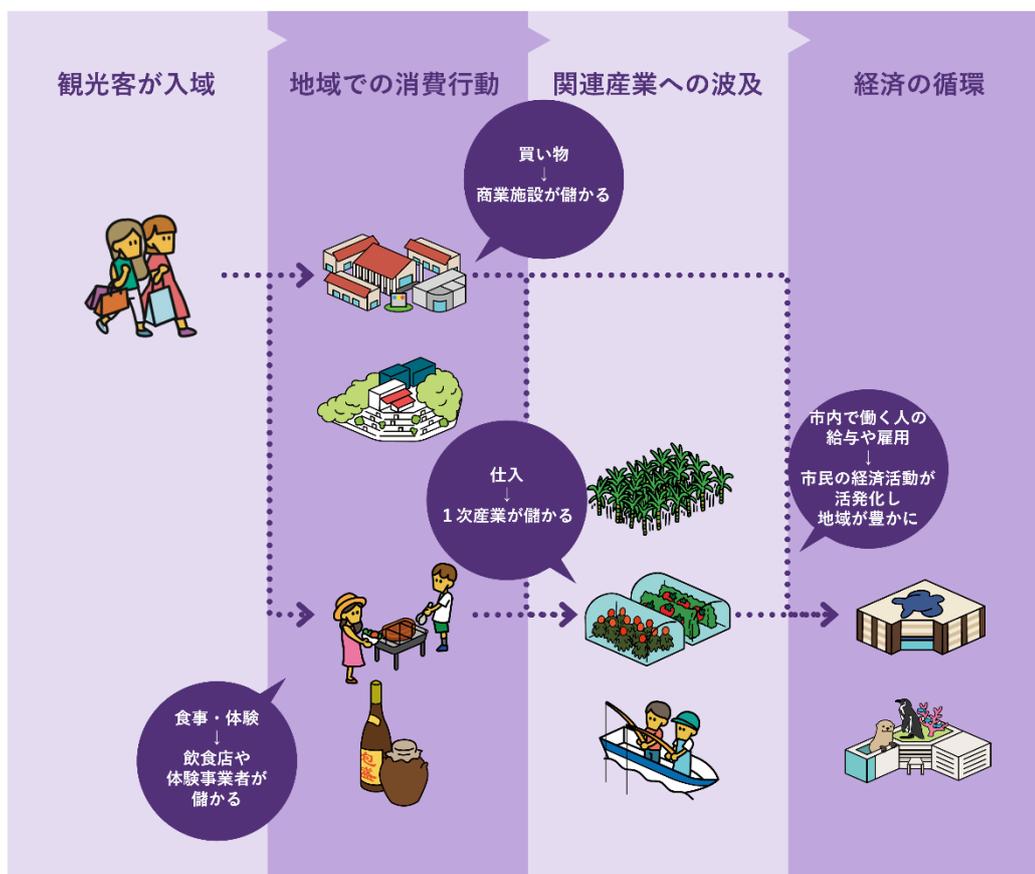
## 02 将来像を実現するための4つの目標

### (1) 市民の生活が豊かに彩る観光

経済

しっかりとお金を使ってもらえる観光拠点が点在している強みを活かし、より長い時間滞在していただけるよう「稼ぐ力」を高め、消費拡大を目指します。

また、本市を訪れる観光客の消費による経済効果が、一部の大企業のみでなく、地域の各産業にいきわたるよう、各産業を連携させる存在としての“観光産業”の確立を目指します。



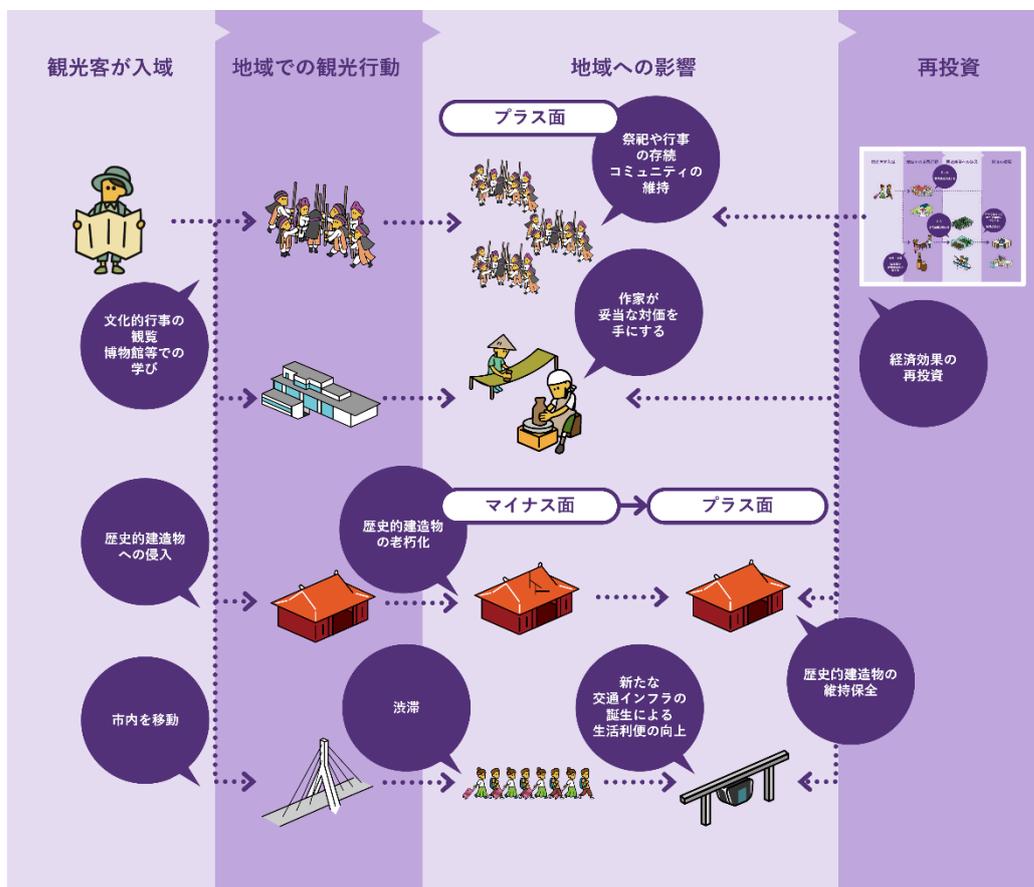
観光の経済インパクトのイメージ（一例）

## (2) 地域の文化がいつまでも彩り続ける観光

社会文化

本市発祥のハーリーや沖縄発祥の空手、地域固有の工芸を対外的に発信できる拠点が立地していることを活かし、沖縄県や豊見城市の文化を対外的に発信し、外部から評価されることで郷土愛の醸成が促進されるよう、評価が地域住民に届くための良質な接点づくりに取り組みます。

また、これらの資源が一方向的に消費されることなく、(1)における地域としての「稼ぎ」を文化の継承や発展のための原資として再投資できるような好循環を目指します。



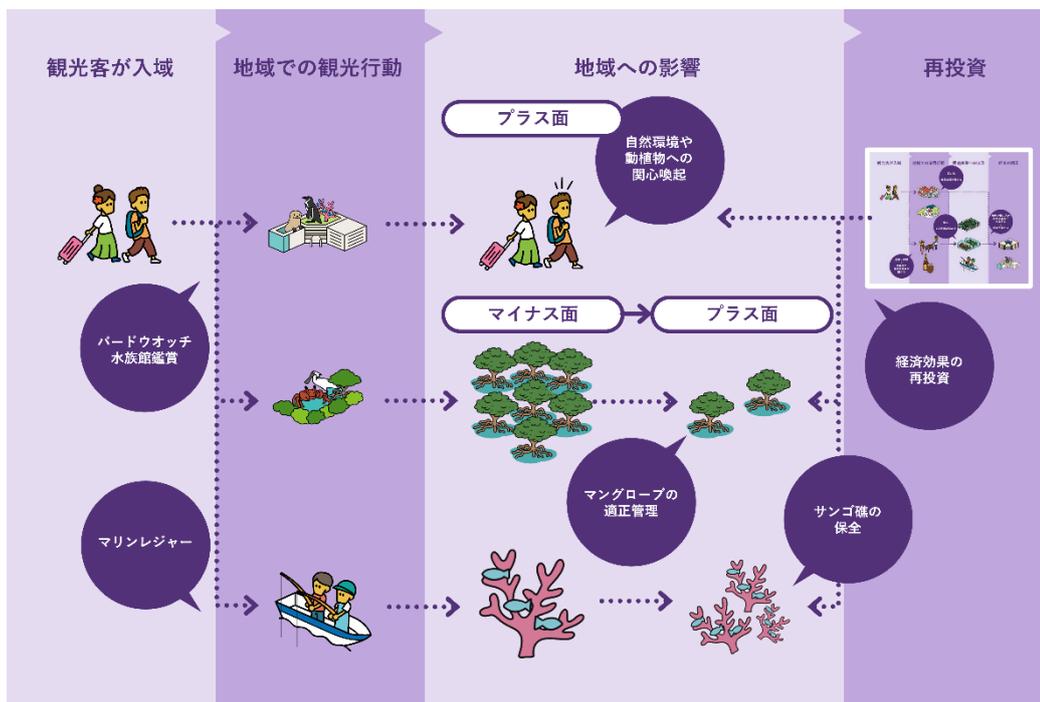
観光の社会・文化インパクトのイメージ（一例）

### (3) 自然環境に彩りを与える観光

環境

本市の美しい海は、観光資源としてのみならず、漁場の場としても肝要な存在であり、観光開発・消費との適切な関係性が求められます。また漫湖水鳥・湿地センターは、水鳥を食物連鎖の頂点とする湿地の生態系を守っていくべき存在です。

これらの資源は観光資源になり得る一方で、消費による消耗が激しい資源です。そのため、(2)と同様に、「稼ぎ」を自然の保護・保全に再投資していくための好循環の形成を目指します。



観光の環境インパクトのイメージ（一例）

### (4) 彩りが重なる面的な観光

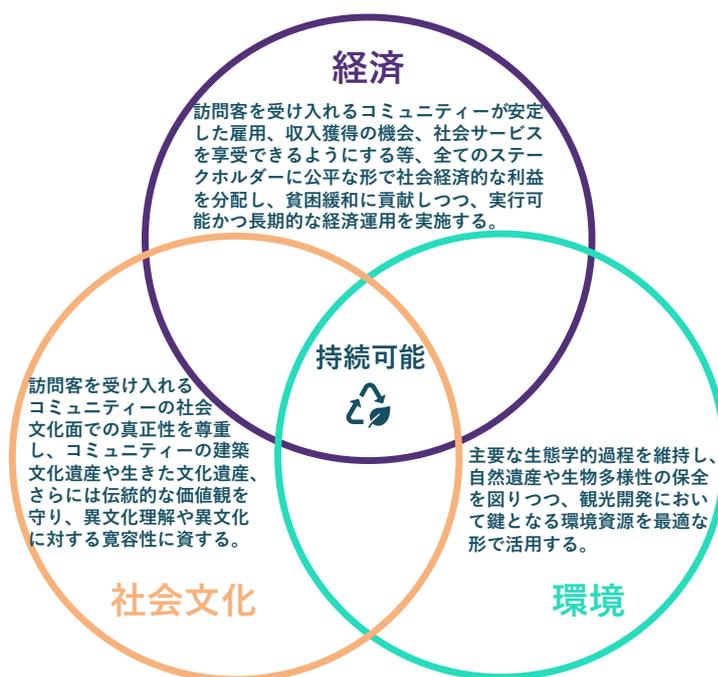
分野横断

前述の3つの基本目標の観点や、将来像ページに記載の産業関連の観点、観光まちづくりとしてのエリア(ゾーニング)の観点等、それぞれの観点において、各要素それぞれで推進するのみでなく、要素間を横断して一体的に取り組むことによる面的な展開を目指します。



## 「持続可能」はもう古い？「持続」から「再生」へ

本計画の将来像や基本目標において重要な要素である「持続可能性」について、国連世界観光機関でも「持続可能な観光」を「訪問客、業界、環境および訪問客を受け入れるコミュニティのニーズに対応しつつ、現在および将来の経済、社会、環境への影響を十分に考慮する観光」と定義づけており、観光まちづくりにおいても、環境、経済、社会文化、これら3つの要素の間で適切なバランスを図り、それぞれにおいて長期的な持続可能性を確保することが必要とされています。



リジェネラティブ(リジェネレーション)とは「再生」や「回生」を表し、「ある段階で当初の役割を果たしたものが、別のところで再び何らかの役に立つ」という意味を含んでいます。もともとは環境をより良い状態に再生する概念として生まれました。

サステナブル・ブランド国際会議の新しいテーマとして、「We are Regeneration」が掲げられています。現在の日本では馴染みの薄い言葉ですが、欧米では企業や市民レベルで急速に話題性が高まっています。

持続可能  
SUSTAINABLE



いま以上に環境を悪化させないため  
にはどうすればよいか



再生可能  
REGENERATIVE



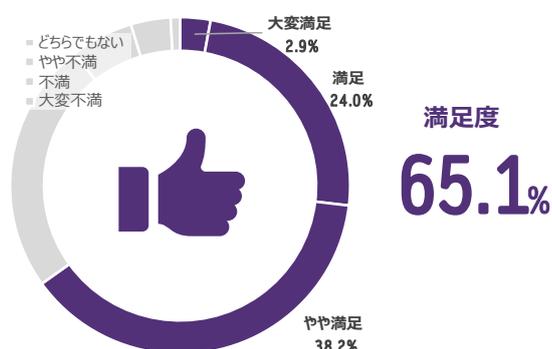
単に環境負荷を抑制するだけでなく、  
根本的な問題を解消した上で  
環境を改善していくためにはどうすればよいか

## 03 将来像や基本目標に対応する指標

### (1) 将来像の達成度を測る指標 (KGI<sup>10</sup>)

#### KGI 1 市民満足度

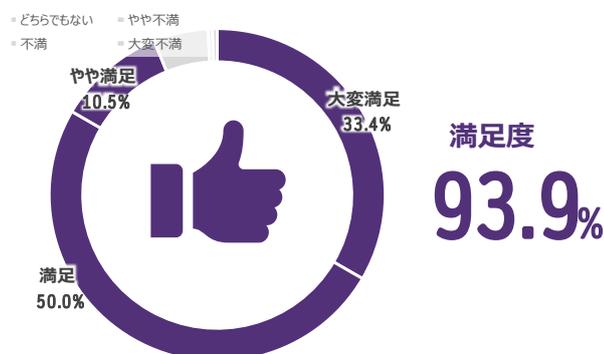
「みんなで彩るまち」を将来像として掲げていることを鑑み、市民皆さんが観光政策の恩恵を受け、生活が彩られていると感じているか、を測る指標として、本計画策定時のアンケートで把握した本市観光政策の総合的な満足度をKGIの一つとします。



図表 37 豊見城市観光政策に対する満足度（市民アンケート、R5）

#### KGI 2 観光客満足度

「次の旅がより楽しみになる」というサブテーマのもと、本市での滞在でしっかりと満足度の高い状態で沖縄旅行を締めくくっていただき、次の来訪につなげることを目指す為、本計画策定時のアンケートで把握した観光客の満足度をもう一つのKGIとします。



図表 38 豊見城市観光に対する満足度（観光客アンケート、R5）

<sup>10</sup> 本計画の将来像の達成度合いを定量的に評価する指標。

## (2) 基本目標の達成度を測る指標 (KPI<sup>11</sup>)

### KPI 1 観光消費額

本市の「稼ぐ力」の向上は、予てからの大きな目標のひとつであり、現況を鑑みても本市は消費を促すポテンシャルの高い観光地と言えることから、国や県における「量から質へ」という大局的な政策の流れも鑑みたくて、

**【基本目標1 市民の生活が豊かに彩る観光】**の達成度を  
**【観光消費額】**から測るものとします。

### KPI 2 市民意識としての「地域への愛着や誇りが高まる」実感

本計画策定時の市民アンケートによると、観光客の増加による地域へのプラス効果の実感として、「地域への愛着や誇りが高まる」と回答している方は2割以下、他の選択肢との比較でも7/11番目という水準にあります。

観光消費が地域の文化の継承や発展に再投資される流れを、観光の好影響として社会・文化への寄与が市民に実感されることを目指し、

**【基本目標2 地域の文化がいつまでも彩り続ける観光】**の達成度を  
**【市民意識としての「地域への愛着や誇りが高まる」実感】**から測るものとします。

### KPI 3 環境保全活動への参加者数

本計画策定時の市民アンケートによると、本市観光への市民の関わり方として「地域の美化や清掃」の回答が最も多い状況にあり、市民参画のポテンシャルが高い状況にあります。一方で、KPI2同様、観光のプラス効果として「海や湿地などの自然環境が守られる」を挙げる市民の割合は8/11番目と低い状態です。

本市の観光資源である、ビーチや漁場、湿地等の環境資源を活用して観光振興を図るうえでの責任として、環境負荷の軽減や環境をより良することへの活動にお金や人員を投資する必要があることから、

**【基本目標3 自然環境に彩りを与える観光】**の達成度を  
**【環境保全活動への参加者数】**から測るものとします。

<sup>11</sup> 将来像の達成に向かって順調に進んでいるかを点検するために設ける中間指標。

# 第4章

---

## 施策と具体的な取組



01 施策体系

02 具体的な取組

# 01 施策体系

## 将来像

ウェルカムな思いで ハートがつながり みんなで彩るまち  
～次の旅がより楽しみになる とみぐすく～

### 経済分野

#### 基本目標 1

市民の生活が豊かに彩る観光

- 瀬長島の更なる活性化
- スポーツコンベンションの推進
- ゆにま～るにおけるにぎわいの創出
- 豊崎美らSUNビーチのブランディング
- 地域固有の「食」の提供
- 農商工連携による新たな商品開発
- ていぐま館の活用強化
- 民間活力の活用
- ふるさと納税事業の推進

### 社会文化分野

#### 基本目標 2

地域の文化がいつまでも彩り続ける観光

- ウチナーツーリズムの推進
- まち歩きストーリーの作成
- 周遊を促進する空間や仕組みの整備
- 風土に根付いた景観づくり
- まちなみ環境の整備
- 観光地としての危機管理の推進
- 歴史文化講座等の充実
- 観光事業への市民意識向上

### 環境分野

#### 基本目標 3

自然環境に彩りを与える観光

- 環境美化活動の推進
- 景観眺望スポットの整備・保全・周知
- 市の鳥のPR・活用
- 海岸利用に関するルール作り
- ブルーカーボンの推進
- 食品ロスの削減
- 地球温暖化防止事業の推進

## 分野横断

#### 基本目標 4

彩りが重なる面的な観光

- 公共交通の高質化
- 交通結節点の整備
- 新たな交通サービスの展開
- 産業連関の強化
- 観光関連団体との連携強化
- 地域おこし協力隊の活用
- 南部広域市町との連携強化
- 観光PRの強化

## 02 具体的な取組

### 基本目標 1 市民の生活が豊かに彩る観光

#### 施策 1 - 1 瀬長島の更なる活性化

空港から15分という恵まれた立地条件を活かしたリゾート地の形成を図るため、駐車場の整備や新たな公共交通の整備等による渋滞緩和対策を推進するとともに、BBQやマリナクティビティの他、ナイトコンテンツの充実などを目指し、非日常的かつラグジュアリーな体験が可能となる観光地の形成を推進します。

主な取組	活動指標
<ul style="list-style-type: none"><li>● 駐車場の拡充</li><li>● 事業者との連携によるアクティビティやコンテンツの開発検討・支援</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 駐車場整備の完了</li><li>● アクティビティやコンテンツの開発数</li></ul>



瀬長島のパース図（リゾート琉球株式会社より提供）

## 施策 1 - 2 スポーツコンベンションの推進

本市のスポーツに関連する計画及び施設等の現状を踏まえ、本市におけるスポーツ施設等の課題を整理し、豊見城総合公園を中心とした森ヌ風 Spo-Park 構想に関する基本方針を検討し、施設の充実や誘致活動等に積極的に取り組むことにより経済的効果・競技力の向上を目指します。

主な取組	活動指標
<ul style="list-style-type: none"><li>● 森ヌ風 Spo-Park 構想に準じた基本計画の策定および民間活力導入等による賑わいの創出</li><li>● スポーツコンベンションやスポーツツーリズムの誘致</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 基本計画策定および民間活力導入検討</li><li>● 合宿等の受入数</li></ul>

## 施策 1 - 3 ゆにま〜る<sup>12</sup>におけるにぎわいの創出

本計画策定時のアンケート調査において観光客からの隠れた需要が明らかになった“豊富な水産資源”を活かし、与根地区観光交流施設ゆにま〜るを核とした、道の駅豊崎や美らSUNビーチなどの周辺施設との相乗効果により所得増加を図ります。

主な取組	活動指標
<ul style="list-style-type: none"><li>● ゆにま〜るの活用方法に関する調査の実施</li><li>● 水産物の直売やマリンアクティビティの拡充等観光客ニーズへの対応</li><li>● 民間事業者と連携した水産資源の活用</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 調査結果の活用</li><li>● 観光プログラム数</li><li>● 活用事業の実施</li></ul>



与根地区観光交流施設ゆにま〜る

<sup>12</sup> 豊見城市与根地区観光交流施設

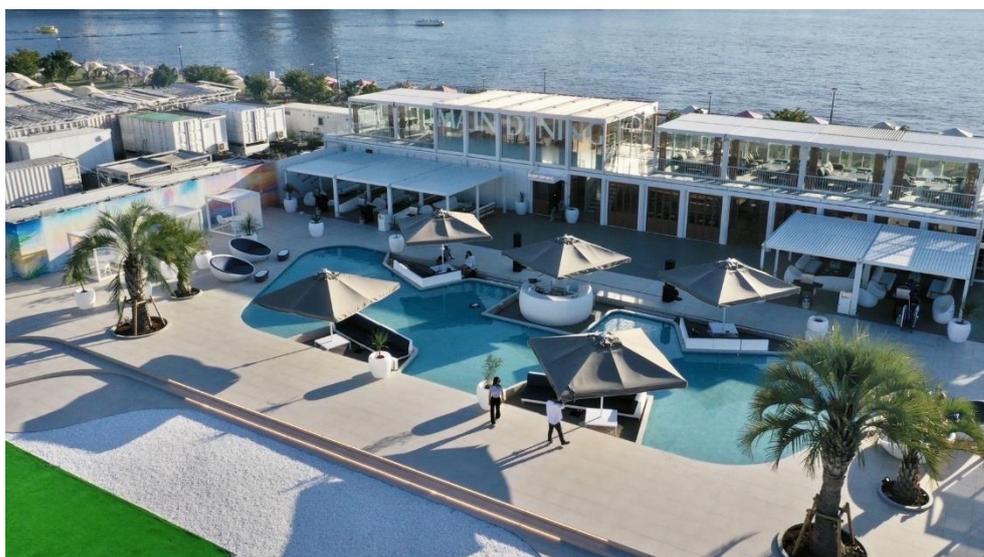
## 施策 1-4 豊崎美らSUNビーチのブランディング

海浜エリアでのBBQやキャンプ、マリンレジャーの充実を図るとともに、周辺の商業施設やビーチ周辺を散策できるような観光地の形成を推進し、周辺ホテルや商業施設との連携を図ります。

主な取組	活動指標
<ul style="list-style-type: none"><li>● BBQ・ビーチキャンプ環境整備の検討</li><li>● 充実したナイトコンテンツの検討</li><li>● マリンアクティビティ拡充の検討</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● BBQ・ビーチキャンプ実施</li><li>● ナイトコンテンツの実施</li><li>● マリンアクティビティの実施</li></ul>



美らSUNビーチでのBBQの様子



ブランディングイメージ（キラナガーデン豊洲）

## 施策 1 - 5 地域固有の「食」の提供

市の主要作物であるマンゴーやトマト、葉野菜が味わえる場を関係機関や沖縄県、JAおきなわ、民間企業、農林高校等の関係機関と連携して取り組みます。また、市マスコットキャラクターを積極的に活用しPRを強化することで農産物のブランディングを推進します。

主な取組	活動指標
<ul style="list-style-type: none"><li>● 市の特産品を使ったメニューの提供</li><li>● 市特産品 P R イベントへの市マスコットキャラクターの出演</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● メニューの提供数</li><li>● イベントへの出演数</li></ul>



豊見城産の野菜

## 施策 1 - 6 農商工連携による新たな商品開発

農商工連携により豊見城産マンゴーや野菜を活用した商品の開発と市場への定着を目指し販路拡大のための物産展や展示・試食会の実施など、6次産業化を推進します。

主な取組	活動指標
<ul style="list-style-type: none"><li>● 新たな商品開発支援</li><li>● 物産展等の開催支援</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 商品開発数</li><li>● 物産展等の開催数</li></ul>



豊見城産ちゅらトマトを使った商品（沖縄ファミリーマート提供）

## 施策 1 - 7 ていぐま館<sup>13</sup>の活用強化

ていぐま館の更なる有効活用の方法について調査研究を行い、ていぐま館の活性化及び収益強化を図ります。

### 主な取組

### 活動指標

- ていぐま館の活用方法についての調査の取組
- 調査結果の活用



豊見城市観光プラザ ていぐま館

## 施策 1 - 8 民間活力の活用

民間事業者の創意工夫等を最大限活用し、公共サービスの向上、地域経済の活性化及び財政負担の軽減等を目的に、民間事業者等から事業提案の募集を行います。

### 主な取組

### 活動指標

- 民間活力導入制度の活用による賑わい創出
- 賑わい創出に関する事業採択数

<sup>13</sup> 道の駅豊崎内豊見城市観光プラザていぐま館。モノづくりの発信拠点として市民の手作り品からウージ染め、紅型、やちむん、琉球ガラス、琉球漆器、木工などの工芸品を展示販売している。

## 施策 1-9 ふるさと納税事業の推進

「まちづくりを応援したい」という方々を増やすため、本計画の各施策を含めたまちづくりのPRに努め、市の自主財源の確保につながるふるさと納税寄付額の増加に取り組めます。

主な取組	活動指標
● まちづくり施策のPR	● 全国 100 位以内の寄付額



ふるさと納税の返礼品

### MEMO

「ふるさと納税」とは、“ふるさとを応援したい自治体に貢献したい”という方々の想いを実現するための制度です。

本市では、ふるさと納税制度を活用して寄附をいただいた方々（本市住民以外の方）へ、寄附へのお返し（返礼品）として市内事業者が取り扱う特産品などをお送りしており、特産品などの販路の一つとして、市内事業者への好循環を生み出しています。

## 基本目標 2 地域の文化がいつまでも彩り続ける観光

### 施策 2-1 ウチナーツーリズムの推進

沖縄発祥の空手文化を発信する施設（沖縄空手会館）や工芸文化施設（おきなわ工芸の杜）、漫湖水鳥・湿地センター、旧海軍司令部壕、新たに整備される豊見城城址や周辺遺跡等の歴史資源と連携したツーリズムを推進することで他の観光地との差別化を図ります。

#### 主な取組

#### 活動指標

- 各施設の連携を促す準備会設立および協議会開催
- コンテンツの提供数



武道ツーリズムのイメージ



ダークツーリズム（ピースツーリズム）<sup>14</sup>

<sup>14</sup> 戦跡などを訪問して死者を悼む観光（ダークツーリズム）と平和への思いを共有する観光（ピースツーリズム）。いずれも観光を通じた学びの題材としても用いられる。

## ✍️ 沖縄固有の資源を活用した観光形態

従前のマストゥリズムにとって代わる存在を表す「ニューツーリズム」の内訳・派生として無数の「〇〇ツーリズム」が誕生しています。以下の例示は一例ですが、いずれも旅行に新たな価値を生み出して差別化を図ろうという旅行業界の戦略と、旅行者の旅の仕方の多様化により誕生した観光のスタイルを指すものです。

### < 最近の様々な〇〇ツーリズム >

#### 【エコツーリズム】

自然保護や環境保全を目的としたエコツアーや、環境に配慮した観光形態

#### 【サステイナブルツーリズム】

長期的に持続可能な観光開発を目指し、地元の文化や伝統を尊重した観光形態

#### 【カルチャーツーリズム】

異なる文化や伝統を体験することを目的とした観光形態

#### 【ウェルネスツーリズム】

旅先でのスパ、ヨガなどを通して、心と体の健康に気づく観光形態

#### 【アドベンチャーツーリズム(アドベンチャートラベル)】

自然の中でアクティビティや異文化体験など、地域の人々と触れ合いながら行う観光形態

等

「ウチナーツーリズム」とは、観光庁や沖縄県庁等の定義があるわけではありませんが、本市では、「沖縄でなければ味わえない、背景に市民の生活や文化が垣間見える、体験交流型楽習旅行」を「ウチナーツーリズム」と呼び、第1次観光振興計画から進行してきました。上記の〇〇ツーリズムのうちの、「カルチャーツーリズム」や「アドベンチャー」に近いものがありますが、必ずしも既存の〇〇ツーリズムのいずれかに該当するということではなく、「各〇〇ツーリズムのような特色を持った形態に、沖縄固有の資源を活用してアプローチする」という包含的な考え方です。



本市のウチナーツーリズム資源

## 施策 2 - 2 まち歩きストーリーの作成

市観光協会、関係団体と連携しまち歩きストーリーのモデルパターンを作成し、ガイドブック化する等、観光客が容易に市内を周遊できるようにします。

### 主な取組

- モデルパターンを作成しガイドブック発刊

### 活動指標

- ガイドブックの発刊



ストーリーのたね（子宝岩）

## 施策 2 - 3 周遊を促進する空間や仕組みの整備

本市へ訪れた観光客がわかりやすく、効率的に周遊することができ、市民も案内しやすいように観光施設への誘導看板等の改修や拡充を推進します。

### 主な取組

- 誘導看板の改修・拡充

### 活動指標

- 新たな看板の設置数



観光案内誘導版

## 施策 2 - 4 風土に根付いた景観づくり

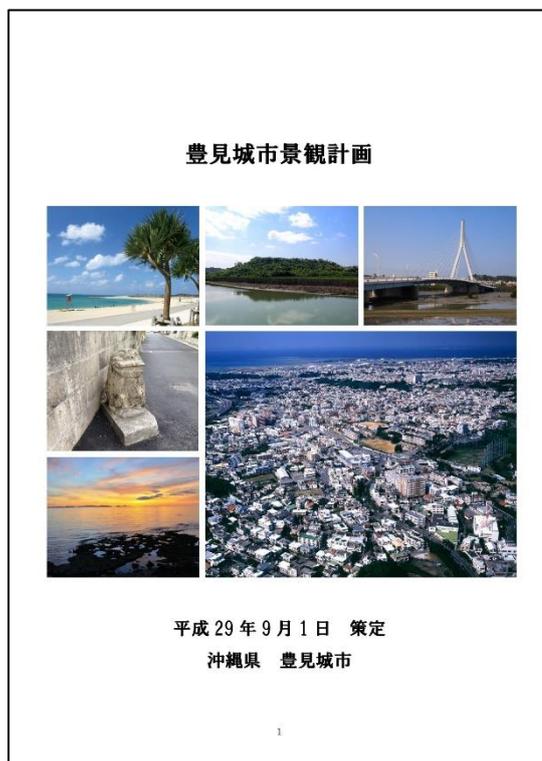
とみぐすくの前風景ともいえる田園景観などの保全・形成に努めるとともに、市街地や集落地においては、地域特性に応じた景観の創造に努めます。

### 主な取組

### 活動指標

- 景観計画の推進

- 計画の推進



豊見城市景観計画

### MEMO

「景観行政団体としての取組み」として、本市は平成 27 年 4 月に景観行政団体となって以降、平成 29 年 9 月に景観法に基づく「豊見城市景観計画」を策定、平成 30 年 4 月には豊見城市景観条例を施行し「愛着と誇り皆で育みつなぐ わったあ～豊見城のまちづくり！」の実現に向けた取組を進めており、一定規模以上の建築物、工作物について届出を行うことを義務付けています。

## 施策 2 - 5 まちなみ環境の整備

字豊見城地区においては、伝統的な瓦屋根の家屋など昔ながらの沖縄の風景が残る街なみや、カー(井戸)・御嶽をはじめとした歴史的資源などが市内でも多く残っていることなどから、平成31年3月に「豊見城市景観計画 景観形成重点地区【字豊見城地区】」(以下、「景観形成重点地区」)に指定されています。

同地区の歴史的・自然的景観を活かした活力あるまちづくりを一層推進する為、国の制度である社会資本整備総合交付金(街なみ環境整備事業)を活用した景観まちづくりの具体的な取組に対する支援を行い、良好な景観の保全・形成を図ります。

主な取組	活動指標
<ul style="list-style-type: none"><li>● 住宅・外構等の修景助成の実施</li><li>● 協議会活動助成の実施</li><li>● 地区施設(道路・公園・歴史資源等)の整備</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 助成数</li><li>● 協議会開催数</li><li>● 工事進捗率</li></ul>



街並み環境整備のイメージ

### MEMO

「景観形成重点地区」において、以下の目標を掲げ、住民・事業者・行政が一体となって取組を進めています。

- ① 素晴らしい眺望を活かす
- ② 歴史や文化を守り育む
- ③ 拠点を結ぶ景観軸の形成
- ④ 景観を彩る水・緑・花を復元しつくりだす
- ⑤ 人が集える交流空間をつくる
- ⑥ 市内外から訪れる人を迎えることができるまちなみ

## 施策 2 - 6 観光地としての危機管理<sup>15</sup>の推進

那覇空港から近い本市の地勢を鑑み、大規模災害発生時には住民と観光客が混在する可能性がある為、4R<sup>16</sup>を確実に実施できるように観光危機管理計画の策定を行います。

### 主な取組

- 観光危機管理計画の策定
- 観光危機管理の啓発

### 活動指標

- 計画の策定
- 勉強会等の開催・参加者数

**とみぐすくし 豊見城市**  
Tomigusuku City 豊見城市

# 防災マップ

## Disaster Prevention Map

防災地圖 防災地圖 防災 지도

### 非常時緊急連絡先

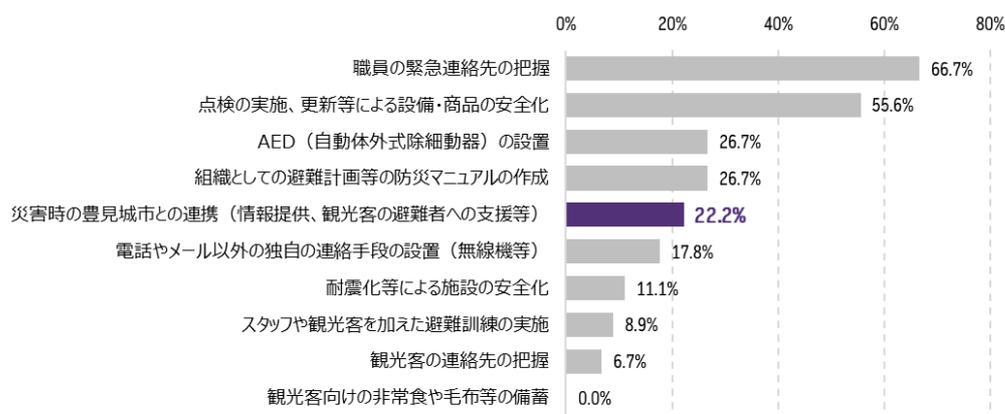
Emergency Contact 災害時緊急聯絡方式 災害時緊急聯絡方式 非常時 긴급 연락처

〈豊見城市役所〉 098-850-0024 (代表)  
Tomigusuku City Office: 098-850-0024 (main)  
〈豊見城市消防〉 098-850-0024 (代表)  
Tomigusuku Fire: 098-850-0024 (main)  
〈豊見城市警察〉 098-850-0110  
Tomigusuku Police: 098-850-0110

〈警察〉 (局番なし) 110  
Police: 110 (no area code)  
〈警 署〉 (局番なし) 110 <警 署> (112) 110  
〈消防〉 (局番なし) 119  
Fire Department: 119 (no area code)

令和3年3月  
March 2021 2021.3

多言語防災リーフレット



図表 39 市内観光事業者の防災に関する取組状況

<sup>15</sup> 災害や事故によって観光客や観光産業に大きな影響・被害をもたらす“観光危機”を事前に想定し、被害を最小限に抑える対策と対応を計画的に行うこと。  
<sup>16</sup> 平常時の減災対策 (reduction)、危機への対応の準備 (readiness)、危機への対応 (response)、危機からの回復 (recovery)。

## 施策 2 - 7 歴史文化講座等の充実

市民や市内事業者に地域の自然や歴史文化、平和について学ぶことで地域への理解を深め、観光まちづくりへの興味や関心を抱いてもらうため、歴史文化、平和について学ぶ講座や鑑賞会、企画展等を開催します。

主な取組	活動指標
<ul style="list-style-type: none"><li>● 歴史文化講座等の開催</li><li>● 市内事業者を対象とした講座の開催</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 講座等参加者数</li><li>● 参加事業者数</li></ul>



講座の様子

## 施策 2 - 8 観光事業への市民意識向上

本市の実施するお仕事体験事業等の中で、観光事業者の体験を設け観光事業への就職意欲につなげます。

主な取組	活動指標
<ul style="list-style-type: none"><li>● お仕事体験事業等で観光事業者ブースの設置</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● ブース出展回数</li></ul>

## 基本目標 3 自然環境に彩りを与える観光

### 施策 3-1 環境美化活動の推進

那覇市、漫湖自然環境保全連絡協議会と連携し、ラムサール条約にも登録されている漫湖及び漫湖周辺の河川の清掃や稚樹抜きイベントを継続的に実施するとともに、児童に対し自然環境の適切な保全や活用についての啓発に取り組めます。

また、市内における道路や公園等の清掃を引き続き行い、景観の保全に努めます。

主な取組	活動指標
<ul style="list-style-type: none"><li>● 清掃や稚樹抜きイベントの継続的实施</li><li>● 児童に対する啓発活動の実施</li><li>● 主要観光地域における道路の美化事業の実施</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● イベントの実施</li><li>● 啓発活動の実施</li><li>● 美化事業の実施</li></ul>



稚樹抜きイベントの様子

## 施策 3 - 2 景観眺望スポットの整備・保全・周知

豊見城城址の整備事業(文化観光創出事業)、長嶺城址総合公園整備事業、豊崎都市緑地(通称:ヤシの木ロード)などの公園整備・周知・保全を行い、自然環境を活かした市の新たな観光資源の開発を推進します。

主な取組	活動指標
<ul style="list-style-type: none"><li>● バリアフリー要素を踏まえた豊見城城址の整備事業(文化創出事業)の実施</li><li>● 長嶺城址総合公園整備事業の実施</li><li>● ヤシの木ロードの整備・保全</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 事業の完了</li><li>● 事業の完了</li><li>● 整備・保全事業実施</li></ul>



豊崎都市緑地 (通称:ヤシの木ロード)



豊見城城址 ガイダンス施設のイメージ

### 施策3-3 市の鳥のPR・活用

令和5年2月1日に制定された市の鳥・クロツラヘラサギは、本市が県内における重要な飛来地となっており、毎年観察できる身近な鳥です。また、本市の水辺の自然環境を象徴する鳥であり、持続可能な観光を実現するため環境教育などでの活用を検討します。

主な取組	活動指標
<ul style="list-style-type: none"><li>● 市の鳥のPR活動実施</li><li>● 環境教育等における活用の推進</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● PR活動の実施</li><li>● 環境教育等の実施</li></ul>



漫湖水鳥・湿地センター木道



市の鳥・クロツラヘラサギ（沖縄野鳥の会より提供）

### 施策 3 - 4 海岸利用に関するルールづくり

関係団体と連携しながら、海岸を安心安全快適な適正利用を図るためのルール作りを推進します。

主な取組	活動指標
● 適正利用のためのルール作りおよび運用	● ルールの策定・運用

### 施策 3 - 5 ブルーカーボンの推進

地域と連携したブルーカーボンに関する取組を推進します。

主な取組	活動指標
● 民間事業者と連携した周辺漁礁の活用	● 漁礁活用の検討



漁礁活用のイメージパース

## 施策 3 - 6 食品ロスの削減

農水産物のうち、規格外の為出荷できず廃棄されるものや、本来食べられるものが捨てられてしまう「食品ロス(フードロス)」という社会問題に対し、民間事業者との連携のもと、飲食料品等への加工や商品化を行うことで、ロスを削減し、6次産業化の推進に取り組みます。

主な取組	活動指標
<ul style="list-style-type: none"> <li>規格外品を使った加工品の製造などによる 6 次産業化の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>加工品開発数</li> </ul>



豊見城市産の規格外品を使った WATTA キーツマンゴー  
※本商品は販売を終了しております

## 施策 3 - 7 地球温暖化防止事業の推進

令和3年3月策定の豊見城市地球温暖化防止実行計画(第3次計画)について、同計画で掲げた地球温暖化対策の将来像「市民と協働でめざす 持続可能な低炭素のまち とみぐすく」の実現に向け、行政と市民、そして事業者の協働による各種取組を推進します。

主な取組	活動指標
<ul style="list-style-type: none"> <li>市主催イベント等におけるカーボン・オフセットの積極的実施</li> <li>企業と連携した地球温暖化防止に関する計画策定</li> <li>市民が行う環境負荷を低減する取組支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>イベントにおけるカーボン・オフセットの実施</li> <li>地球温暖化防止計画(区域策編)(仮称)の策定</li> <li>取組支援数</li> </ul>

## 基本目標 4 彩りが重なる面的な観光

### 施策 4-1 公共交通の高質化

公共施設やコンビニエンスストア等と連携したバス待ちスペースの設置、既存バスナビアプリ利用促進のためのPR、バス運行関連情報のオープンデータ化への取り組みを推奨する等、公共交通の利用促進に向けた取組を推進します。

また、豊見城市内一周線(105番線)のニーズを把握し、ルートやダイヤの見直しにより利便性向上を図るとともに、市内観光施設を周遊するグリーンスクーモビリティの導入を推進するほか、シェアサイクルサービス、カーシェアリングサービスの利用促進及び拡充により市内における観光の周遊性の確保と市民・県民の移動手段の確保を目指します。

その他、相互利用可能な複数のサイクルポートの拡充を推進し、シェアサイクルサービスの利便性向上を目指すとともに、カーシェアリングサービスの利用促進及び拡充を目指します。

主な取組	活動指標
<ul style="list-style-type: none"><li>● バス待ちスペースの設置</li><li>● バスナビアプリの利用促進のためのPR</li><li>● バス運行関連情報のオープンデータ化の推奨</li><li>● 豊見城市内一周線のニーズ調査およびルートやダイヤの見直し検討</li><li>● シェアサイクルのポート拡充および利用促進</li><li>● カーシェアリングサービスのステーション設置</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● バス待ちスペースの設置数</li><li>● バス利用者数</li><li>● 事業者への取組推奨</li><li>● ルートやダイヤの再編</li><li>● ポート数</li><li>● ステーション数</li></ul>



カーシェアリングサービス

## 施策4-2 交通結節点の整備

将来的に交通結節点の役割を担うことが想定される5か所(市役所周辺エリア、豊崎エリア、真玉橋エリア、名嘉地エリア、豊見城ICエリア)について結節点としての機能整備を推進します。

主な取組	活動指標
● 交通結節点の整備の推進	● 本格導入に向けた整備推進

## 施策4-3 新たな交通サービスの展開

県内において展開されている様々なMaaS<sup>17</sup>事業の動向を踏まえて、観光施設との連携等へのMaaS事業の活用を検討します。

また、『まちづくりの推進に係る連携協力に関する協定』を締結したZipInfrastructure株式会社と連携し、今後、可能性等検討を進めます。

その他、関係機関と連携し、本市に適した新たな地域交通システム導入検討を推進します。

主な取組	活動指標
● MaaSサービスの活用に関する調査・検討	● MaaSサービスの導入
● 新たな公共交通システムの導入に関する調査・検討	● 調査・検討の推進

<sup>17</sup> MaaSは「Mobility as a Service」の略で、これまでバスや電車、タクシー、飛行機など、個別に行っていた公共交通機関の経路検索や予約・支払いなどを一つのサービスとして統合し、人々の交通利便性を向上させるサービス。

## 施策 4 - 4 産業関連の強化

本市の産業における課題を明確にし、活力ある地域経済の維持や発展の指針となる計画を策定し、観光に関連する諸産業との面的な活性化を進めます。

主な取組	活動指標
● 産業振興計画の策定	● 策定完了

## 施策 4 - 5 観光関連団体との連携強化

市観光関連団体と連携し、観光資源の調査研究、観光情報の発信・提供を行い本市への観光客の誘致を図ります。また、観光イベントや各種体験イベントをはじめ、本市の地域団体の実施する観光事業への支援・協力協働を行い、観光協会会員数の増加を目指します。

その他、本市発祥のハーリー文化を活用したツアーの実施やハーリー大会の開催を推進し本市の新たな観光資源について積極的なPRを行います。

主な取組	活動指標
● イベントの開催	● イベント開催数
● ハーリー乗船体験ツアー等の実施	● 体験者数
● 市内観光事業者への支援・協力協働	● 観光協会会員数



ハーリー文化を活用したツアー

## 施策 4 - 6 地域おこし協力隊の活用

本市の地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこし支援や、観光における課題解決を図るため、地域おこし協力隊制度の活用を推進します。

主な取組	活動指標
● 地域おこし協力隊の登用および活動支援	● 隊員登用数

## 施策 4 - 7 南部広域市町との連携強化

沖縄本島南部地域の魅力や、観光に関する情報発信の戦略について、南部広域観光関連団体と連携を行い相乗効果により観光地としての魅力向上を図ります。

主な取組	活動指標
● 南部広域観光関連団体との連携	● 事業実施

## 施策 4 - 8 観光 P R の強化

市の広報誌やSNS等の積極的活用、観光協会との連携によるリーフレットの作成、市観光大使および豊見城市アンバサダーと連携した情報発信等により、地域特産物や観光地のブランド力向上など、地域の活性化を図ります。また、市マスコットキャラクターの積極的活用を行い、観光PRをさらに強化します。

主な取組	活動指標
<ul style="list-style-type: none"> <li>● SNS等を活用した観光情報の発信</li> <li>● リーフレットの作成</li> <li>● 市観光大使および豊見城市アンバサダーによる情報発信</li> <li>● 市マスコットキャラクターのイベント参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● SNS等インプレッション数</li> <li>● 配布数</li> <li>● 観光大使および豊見城市アンバサダー登用数</li> <li>● イベント参加数</li> </ul>

あらしんを飛ばすために... 豊見グループ

京急川崎駅ホームが  
沖繩になっちゃう?

京急川崎

沖繩  
とみぐすく  
豊見城フェア  
TOMIGUSUKU

1.26 Fri. 12:00-17:30 / 1.27 Sat. - 1.28 Sun. 11:00-18:00

場所：京急川崎駅 1番線ホーム  
京急電車下り止り切って、ホームと直内で  
沖縄グルメ、ワークショップ、物産展を楽しんじゃおう！  
※参加費無料 ※12歳未満は保護者の同伴が必要 ※会場は1階のみ  
※会場への入場は京急川崎駅の入場券、または京急川崎駅を区間に含む乗車券が必要です。

**豊見城市物産販売会**  
1.26 Fri. - 1.28 Sun.  
物産品販売  
沖縄県内一の生産量を誇るトマト、豊見  
産市に工場を築くスッパイマン、ごとう  
きびを利用した炭物であるウジ染め  
など、沖縄県豊見城市にゆかりのある  
市産品が数多くあります。

**アンケートキャンペーン**  
会場でアンケートにご回答いただいた方にのみならず、  
沖縄県豊見城市のオリジナルグッズをプレゼント！  
実際に豊見城を訪れた方にはさらに物産品GETのチャンス！  
是非ご参加ください。  
※プレゼントの抽選は1月28日実施となります。 ※賞品は1階のみです。

**シーサーの絵付け体験**  
1.27 Sat. - 1.28 Sun.  
かわいいシーサーに自分でお絵付けが楽しめます。  
賞品に1つだけオリジナルのシーサーをプレゼント！  
※参加費無料 ※12歳未満は保護者の同伴が必要です。

**グリーティング**  
1.27 Sat. - 1.28 Sun.  
豊見城市観光大使 アゴマゴちゃん  
京急豊見マスコットキャラクター けいちゃん  
が登場！  
豊見城市観光大使 アゴマゴちゃん  
京急豊見マスコットキャラクター けいちゃん

DRINK | EAT | TALK

KEIKYU  
京急グループ

本市プロモーション事業のチラシ

## ✎ 豊見城市をPRする観光大使の活躍

豊見城市では、本市を広く国内外にPRし、市のイメージアップおよび観光振興を図るため、豊見城市観光大使を設置しています。



### アゴマゴちゃん AGOMAGO-chan

フルーツが大好きで、ちょっぴりアゴが長いのが悩み。日焼けを気にせず太陽の下でのびのび育った、スイートでキュートな女の子！市内外イベントにて豊見城市PRを行っています。豊見城市のInstagramにも出現します。

### かりゆし58 KARIYUSHI58

2005年4月沖縄で結成の4人組バンド。沖縄音階にロック、レゲエをチャンプルーしたサウンドとかざらない言葉でメッセージを発信し世代を超え人気をよんでいる。



豊見城市を拠点に活動する創作エイサー団体。創作エイサーを中心に獅子舞・旗・舞踊・唄三線なども取り入れ、エンターテインメント性豊かな、しんか-SHINKA-だけが創ることのできる唯一無二の舞台に向けて、日々活動中。

### しんか SHINKA

豊見城市出身の俳優。大学卒業後、ヨーロッパでモデルとして活動。2005年に戦後の沖縄を描いた映画『ハブと拳骨』でデビュー。2008年から本格的に芝居を学ぶことを決意し渡米、現在は日本を拠点に邦画だけでなく海外の作品にも多数出演している。

### 尚 玄 SHOGEN



# 第 5 章

---

実現に向けて

- 
- 01 推進体制
  - 02 目標指標
  - 03 ロードマップ
  - 04 進行管理

# 01 推進体制

基本施策	行政	観光団体	事業者	市民
1-1 瀬長島の更なる活性化	★		●	
1-2 スポーツコンベンションの推進	★			
1-3 ゆにま〜るにおけるにぎわいの創出	★	●	●	
1-4 豊崎美らSUNビーチのブランディング	●	●	★	
1-5 地域固有の「食」の提供	★		●	
1-6 農商工連携による新たな商品開発	★		●	
1-7 ていくま館の活用強化	★	★	●	
1-8 民間活力の活用	★		★	
1-9 ふるさと納税事業の推進	★	●	●	
2-1 ウチナーツーリズムの推進	★	★	●	
2-2 まち歩きストーリーの作成	★	★	●	
2-3 周遊を促す空間や仕組みの整備	★			
2-4 風土に根付いた景観づくり	★	●	●	●
2-5 まちなみ環境の整備	★			●
2-6 観光地としての危機管理の推進	★	★	●	●
2-7 歴史文化講座等の充実	★	●	●	●
2-8 観光事業への市民意識向上	★	●	●	★
3-1 環境美化活動の推進	★	●	●	●
3-2 景観眺望スポットの整備・保全・周知	★			
3-3 市の鳥のPR・活用	★			
3-4 海岸利用に関するルールづくり	★		★	
3-5 ブルーカーボンの推進	★		●	
3-6 食品ロスの削減	★		●	
3-7 地球温暖化防止事業の推進	★	●	●	●
4-1 公共交通の高質化	★		●	
4-2 交通結節点の整備	★		●	
4-3 新たな交通サービスの展開	★		●	
4-4 産業連関の強化	★		●	
4-5 観光関連団体との連携強化	★	★	●	
4-6 地域おこし協力隊の活用	★	●		
4-7 南部広域市町との連携強化	★	★		
4-8 観光PRの強化	★	★	●	●

※★：主体 ●：主体をサポート・連携する関係者

## 02 目標指標

### (1) 将来像に関する目標指標（KGI）

本市観光政策に対する市民の満足度で70%、観光客の満足度で95%を目指します。

成果指標	現状値	目標値
市民満足度	65.1% (R5) >>>	70% (R12)
観光客満足度	93.9% (R5) >>>	95% (R12)

### (2) 基本目標に関する目標指標（KPI）

経済面では、観光消費額の単価および入込客数をそれぞれ増加させ、本市の年間観光消費額 170.9 億円を目指します。

社会文化面では、市民意識として、観光のポジティブな影響として「地域への愛着や誇りが高まる実感」を挙げる人の割合 35%を目指します。

環境面では、環境保全活動参加者を地域住民および観光客の計 330 人を目指します。

成果指標	現状値	目標値
観光消費額	75.8 億円 (R5) >>>	170.9 億円 (R12)
地域への愛着や誇りが高まる実感	18.3% (R5) >>>	35% (R12)
環境保全活動への参加者数	165 人 (R5) >>>	330 人 (R12)

## 03 ロードマップ

### 基本目標 1 市民の生活が豊かに彩る観光

施策 No	取組	前期 (R6~7)
1-1 瀬長島の更なる活性化	駐車場の拡充	瀬長島における駐車場の拡充整備について検討を行い、整備を推進します。
	事業者との連携によるアクティビティやコンテンツの開発検討・支援	観光関連事業者との連携により、アクティビティやコンテンツの開発について検討を推進します。
1-2 スポーツコンベンションの推進	森ヌ風 Spo-Park 構想に準じた基本計画の策定および民間活力導入等による賑わいの創出	森ヌ風 Spo-Park 構想の基本計画策定を推進します。
	スポーツコンベンションやスポーツツーリズムの誘致	プロスポーツチーム等の合宿誘致に積極的に取り組み、スポーツツーリズムを推進します。
1-3 ゆにま〜るにおけるにぎわいの創出	ゆにま〜るの活用方法に関する調査の実施	観光客のニーズについて調査し、調査結果を基にしたゆにま〜るの活用を行います。
	水産物の直売やマリンアクティビティの拡充等観光客ニーズへの対応	観光客のニーズについて調査し、調査結果を基にしたマリンアクティビティの拡充を図ります。
	民間事業者と連携した水産資源の活用	民間事業者と連携し事業の実施に取り組みます。

中期（R8~10）	後期（R11~12）
駐車場の拡充について引き続き整備を行います。	駐車場の整備を完了します。
観光関連事業者との連携により開発されたアクティビティやコンテンツについて、支援及び協働を行います。	継続して実施（必要に応じて検証・見直しを行います。）
森ヲ風 Spo-Park 構想について実施設計を推進します。	森ヲ風 Spo-Park 構想について実施設計及び事業着手を推進します。
継続して実施（必要に応じて検証・見直しを行います。）	継続して実施（必要に応じて検証・見直しを行います。）
継続して実施（必要に応じて検証・見直しを行います。）	継続して実施（必要に応じて検証・見直しを行います。）
継続して実施（必要に応じて検証・見直しを行います。）	継続して実施（必要に応じて検証・見直しを行います。）
事業（継続事業を含めた 1 件以上）の継続（必要に応じて検証・見直しを行います。）	事業（継続事業を含めた 1 件以上）の継続（必要に応じて検証・見直しを行います。）

施策 No	取組	前期 (R6~7)
1-4 豊崎美ら SUNビ ーチのプ ランディ ング	B B Q・ビーチキャンプ環境整備の検討	B B Q・ビーチキャンプ環境について調査を行い、整備を検討します。
	充実したナイトコンテンツの検討	充実したナイトコンテンツに向けたニーズについて調査を行います。
	マリンアクティビティ拡充の検討	マリンアクティビティのニーズについて調査を行います。
1-5 地域固 有の「食」 の提供	市の特産品を使ったメニューの提供	市の関係機関と連携しながら、特産品を使ったメニューを考案し、提供を行います。
	市特産品 P R イベントへの市マスコットキャラクターの出演	市特産品を P R するイベントへ、市のマスコットキャラクターの出演を年 1 回以上行います。
1-6 農商工 連携によ る新たな 商品開 発	新たな商品開発支援	民間事業者との連携を行い、新商品の開発を行います。
	物産展等の開催支援	開発した新商品について、物産展等の開催し販路拡大を行います。

中期（R8～10）	後期（R11～12）
事業実施に向けた整備を行い、事業を実施します。	継続して実施（必要に応じて検証・見直しを行います。）
ニーズ調査の結果を活用し充実したナイトコンテンツに向けた事業を実施します。	継続して実施（必要に応じて検証・見直しを行います。）
ニーズ調査の結果を活用しマリンアクティビティの拡充に向けた事業を実施します。	継続して実施（必要に応じて検証・見直しを行います。）
継続して実施（必要に応じて検証・見直しを行います。）	継続して実施（必要に応じて検証・見直しを行います。）

施策 No	取組	前期（R6~7）
1 - 7 ていぐま館 の活用 強化	ていぐま館の活用方法につい ての調査の取組	ていぐま館の有効な活用方法について、調査を行い 活用方法について検討を行う。
1 - 8 民間活 力の活 用	民間活力導入制度の活用 による賑わい創出	事業の募集・採択を行い、民間の活力を使った事 業を実施します。
1 - 9 ふるさと納 税事業の 推進	まちづくり施策の PR	体験型のコンテンツを含めたふるさと納税の返礼品の 開発を行います。

中期（R8~10）	後期（R11~12）
ていぐま館に関する調査結果を活用し、ていぐま館の活性化を推進する。	継続して実施（必要に応じて検証・見直しを行います。）
前期で採択された事業を含め、事業を継続実施します。（必要に応じて検証・見直しを行います。）	前期で採択された事業を含め、事業を継続実施します。（必要に応じて検証・見直しを行います。）
前期で開発した返礼品を含め、多彩な返礼品コンテンツの拡充を継続して行います。	前期で開発した返礼品を含め、多彩な返礼品コンテンツの拡充を継続して行います。

## 基本目標 2 地域の文化がいつまでも彩り続ける観光

施策 No	取組	前期 (R6~7)
2-1 ウチナーツ ーリズムの 推進	各施設の連携を促す準備会 設立および協議会開催	関連施設の連携について調査を行い、準備会や協議会の開催を行い、事業実施につなげます。
2-2 まち歩き ストーリー の作成	モデルパターンを作成し、ガイド ブックの発行	市内観光周遊のモデルコースの検討・作成を行い観光ガイドブックへの発行を行います。
2-3 周遊を促 進する空 間や仕組 みの整備	誘導看板の改修・拡充	誘導看板について、適宜情報の更新を行い、また、新たな観光施設等に新規の看板設置を行う。
2-4 風土に根 付いた景 観づくり	景観計画の推進	市景観計画に基づき、地域特性に応じた景観の創造に取り組みます。
2-5 まちなみ 環境の 整備	住宅・外構等の修景助成の 実施	まちなみの環境の整備を目的とした住宅・外構等の修景に対する助成を実施します。
	協議会活動助成の実施	まちなみの環境の整備を目的とした協議会に対する協議会活動に対して助成を実施します。
	地区施設（道路・公園・歴 史資源等）の整備	文化資源や、交流の場となる広場、歩きたくなる連続性のある散策路づくりについて検討・整備を行います。

中期（R8～10）	後期（R11～12）
継続して実施（必要に応じて検証・見直しを行います。）	継続して実施（必要に応じて検証・見直しを行います。）
文化資源や、交流の場となる広場、歩きたくなる連続性のある散策路づくりについて整備し、運用を行います。	継続して実施（必要に応じて検証・見直しを行います）

施策 No	取組	前期 (R6~7)
2 - 6 観光地としての危機管理の推進	観光危機管理計画の策定	喫緊の課題となっている観光危機管理に対して適切な対応を講じるため、観光危機管理計画の策定を行い、計画の推進を行います。
	観光危機管理の啓発	市内事業者の観光危機管理の意識向上の為、勉強会等を開催し参加を促進します。
2 - 7 歴史文化講座等の充実	歴史文化講座等の開催	市内の歴史について学ぶ歴史文化講座等を開催し、シビックプライドの向上を目指します。
	市内事業者を対象とした講座の開催	市内事業者を対象とした歴史文化講座等を開催し、参加を促すことで、市内事業者のホスピタリティの向上を目指します。
2 - 8 観光事業への市民意識向上	お仕事体験事業等で観光事業者ブースの設置	市で開催されるお仕事体験事業において、観光関連事業者ブースを設置し、観光業に対する児童の将来の職業観形成を図ります。

中期（R8~10）	後期（R11~12）
継続して実施（必要に応じて検証・見直しを行います。）	継続して実施（必要に応じて検証・見直しを行います。）

### 基本目標 3 自然環境に彩りを与える観光

施策 No	取組	前期 (R6~7)
3-1 環境美化活動の推進	清掃や稚樹抜きイベントの継続的实施	ラムサール条約にも登録されている漫湖及び漫湖周辺の河川で行われる清掃・稚樹抜きイベントへの市民参加を促し、環境保全の啓発に取り組みます。
	児童に対する啓発活動の実施	自然環境の適切な保全や活用方法について、講座等を開催し、自然環境に対する児童の意識向上を図ります。
	主要観光地域における道路の美化事業の実施	観光客が多く訪れる豊崎、瀬長地域の環境美化作業を実施し、魅力的な観光地としての景観形成を推進します。
3-2 景観眺望スポットの整備・保全・周知	豊見城城址の整備事業（文化観光創出事業の実施）	文化観光創出事業の継続実施により、豊見城城址周辺の活用について検討を行い、整備を進めます。
	長嶺城址総合公園整備事業の実施	長嶺総合公園整備事業の実施により、跡地活用の検討と整備に取り組んでまいります。
	ヤシの木ロードの整備・保全	ヤシの木ロードの整備・保全を行い景勝地として県内外へPRを行います。
3-3 市の鳥のPR・活用	市の鳥のPR活動実施	自然環境を考えるシンボルとなる市の鳥を活用したPRの方法について検討し活用を行います。
	環境教育等における活用の推進	市の鳥を活用したイベントを開催し、環境に対する市民意識の向上を図ります。
3-4 海岸利用に関するルール作り	適正利用のためのルール作りおよび運用	海岸を安心安全に利用する為のルールを策定し、運用を行います。

中期（R8~10）	後期（R11~12）
継続して実施（必要に応じて検証・見直しを行います。）	継続して実施（必要に応じて検証・見直しを行います。）
継続して実施（必要に応じて検証・見直しを行います。）	継続して実施（必要に応じて検証・見直しを行います。）
継続して実施（必要に応じて検証・見直しを行います）	継続して実施（必要に応じて検証・見直しを行います）
豊見城城址公園跡地の整備、ガイダンス施設の整備を完了し、運用を行います。	継続して実施（必要に応じて検証・見直しを行います。）
公園の整備に取り組んでまいります。	継続して実施（必要に応じて検証・見直しを行います。）
継続して実施（必要に応じて検証・見直しを行います。）	継続して実施（必要に応じて検証・見直しを行います。）

施策 No	取組	前期 (R6~7)
3-5 ブルーカー ボンの推 進	民間事業者と連携した周辺 漁礁の活用	民間事業者と連携し、不要資材等を活用したブル ーカーボンを推進します。
3-6 食品ロス の削減	規格外品を使った加工品の 製造などによる6次産業化の 推進	規格外品を使った加工製品の製造販売について関 係者と連携した取り組みを行います。
3-7 地球温 暖化防 止事業 の推進	市主催イベント等におけるカー ボン・オフセットの積極的実施	市開催のイベントでのカーボン・オフセットを推進しま す。
	企業と連携した地球温暖化 防止に関する計画策定	企業と連携し、地球温暖化防止の啓発イベントを 開催し参加を促進します。
	市民が行う環境負荷を低減 する取組支援	市民が行う環境負荷を低減する取組に対して支援 を行います。

中期（R8~10）	後期（R11~12）
継続して実施（必要に応じて検証・見直しを行います。）	継続して実施（必要に応じて検証・見直しを行います。）

## 基本目標 4 彩りが重なる面的な観光

施策 No	取組	前期 (R6~7)
4 - 1 公共交通の 高質化	バス待ちスペースの設置	公共施設やコンビニエンスストア等と連携したバス待ちスペースの設置を行います。
	バスナビアプリの利用促進	既存のバスナビアプリの利用を促し、バスを利用した観光周遊を促進します。
	バス運行関連情報のオープンデータ化の推奨	バス運行関連情報のオープンデータ化を推奨し、バスを利用した観光周遊を促進します。
	豊見城市内一周線のニーズ調査およびルートやダイヤの見直し検討	豊見城市内一周線（105 番線）のニーズを調査しルートやダイヤの見直しを検討を推進します。
	シェアサイクルのポート拡充および利用促進	シェアサイクルポートの拡充とシェアサイクルサービスの利用を推進し市内観光における周遊性の向上と交通渋滞の解消を目指します。
	カーシェアリングサービスのステーション設置	カーシェアリングサービスのステーションの設置により、市内観光の周遊性の向上を目指します。

中期（R8~10）	後期（R11~12）
継続して実施（必要に応じて検証・見直しを行います。）	継続して実施（必要に応じて検証・見直しを行います。）

施策 No	取組	前期（R6~7）
4 - 2 交通結 節点の 整備	交通結節点の整備の推進	交通結節点の整備に関する調査検討を行い、必要な機能の整備を行います。
4 - 3 新たな交 通サービ スの展開	MaaS サービスの活用に関する調査・検討	県内において展開されている Maas 事業の動向を踏まえた調査を行い、サービス導入を推進します。
	新たな公共交通システムの導入に関する調査・検討	関係機関と連携し、本市に適した新たな地域交通システム導入検討を推進します。
4 - 4 産業連 関の強 化	産業振興計画の策定	本市の産業における課題を明確化し、活力ある地域経済の維持や発展の指針となる計画を策定し、推進します。

中期（R8~10）	後期（R11~12）
継続して実施（必要に応じて検証・見直しを行います。）	継続して実施（必要に応じて検証・見直しを行います。）

施策 No	取組	前期 (R6~7)
4 - 5 観光関連団体との連携強化	イベントの開催	市内観光関連団体と連携し、特色のあるイベントを年 1 回以上開催し、誘客を図ります。
	ハーリー乗船体験ツアー等の実施	市発祥のハーリー文化を活用したツアーを実施し、他観光地との差別化を図ります。
	市内観光事業者への支援・協力協働	市内観光事業者への支援や協力協働を行うことで、市内観光業の活性化を図り市観光協会の会員数増加につなげます。
4 - 6 地域おこし協力隊の活用	地域おこし協力隊の登用および活動支援	地域おこし協力隊の制度を活用し、地域資源の発掘や再生を図ります。
4 - 7 南部広域市町との連携強化	南部広域観光関連団体との連携	南部広域の観光関連団体と連携し、準備会や協議会を開催し、南部広域連携のメリットを活用したイベントの実施を推進します。

中期（R8~10）	後期（R11~12）
継続して実施（必要に応じて検証・見直しを行います。）	継続して実施（必要に応じて検証・見直しを行います。）

施策 No	取組	前期（R6~7）
4 - 8 観光 P R の強化	S N S 等を活用した観光情報の発信	S N S 等を活用し、多種多様でユニークな情報発信を行うことで、市観光の知名度と訴求力の向上を図ります。
	リーフレットの作成	市内観光の周遊性を高めるため、観光リーフレットを作成し配布を行います。
	市観光大使および豊見城市アンバサダーによる情報発信	市観光大使と豊見城市アンバサダーと連携した情報発信やイベントの開催を通じて、市観光の知名度と訴求力の向上を図ります。
	市マスコットキャラクターのイベント参加	市内外のイベントへの積極的な参加により、市マスコットキャラクターの知名度を高めると同時に、市の知名度向上を目指します。

中期（R8~10）	後期（R11~12）
継続して実施（必要に応じて検証・見直しを行います。）	継続して実施（必要に応じて検証・見直しを行います。）

## 04 進行管理

本計画の確実な実行に向けては、基本目標として掲げる目標値について、それぞれの取組がどのように寄与しているのかを定期的な調査等を通じて確認し、年に1回以上の審議委員会の開催により関係各位からの評価を受け、政策の進捗状況や、感染症のような産業を揺るがす外因の発生等に応じ、計画の見直しを柔軟に行っていく PDCA サイクルを構築していくこととします。

なお、計画の進捗に関する審議をより具体的なものとするために、前述のKGI・KPIのみならず、取組ごとの評価についても産業振興課が中心となり、関係各課と調整のうえ、SMART<sup>18</sup>の法則を意識した活動指標の設定・計測し、管理するものとします。

特に、定期的な統計データ、調査データの把握は、目標値の達成状況を把握するためには不可欠であることから、計画的に実施します。



<sup>18</sup> Specific (具体的な) Measurable (測定可能な) Achievable (達成可能な) Relevant (関連性のある) Time-bound (期限を定めた) の頭文字をとった目標設定手法の考え方。右ページコラム参照。



## 細かければいいわけじゃない？効果的な指標の立て方

「SMART」とは、適切で明確な目標を立てるために欠かせない5つの要素を含んだ、目標設定のためのフレームワークです。頭文字は、それぞれ下記を意味しています。



明確で適切なゴールが設定されると、日々の意識すべきことや具体的なアクションなどの行動計画を作りやすくなります。その結果、業務のPDCAサイクルを回しやすくなり、パフォーマンスの向上にもつながります。また、「地域としての方針と整合しているか」「達成できる目標か」などの観点で目標を立てることで、ステークホルダーとも共通認識を持ちやすくなるため、意思決定や施策評価にも役立ちます。「SMART」を活用すれば、上記の観点で自分の業務を振り返ることができる目標を設定できます。

### Specific：具体性（目標が具体的であるか）

Specificとは、「具体的な」という意味で、「目標が具体的であるか」という基準で目標を立てます。目標設定では、「誰が聞いても同じ認識を持てるほど明確な目標になっているか」が非常に重要です。たとえば、「次の新商品をヒットさせる」という目標は、「何をもってヒットになるか」が人によって異なるため、明確とはいえません。「1年間で1000個売る」や「年間1000万円の利益を生み出す」など、具体的であることで目標として機能します。

### Measurable：計量性（達成度を測れる目標か）

Measurableは「測定可能か」という意味で、「目標の達成度が測れるか」という基準を表します。あいまいな目標の場合、達成できたかがわからず、計画をうまく評価できません。正しく評価ができないと、地域の成長に効果がないため、意味のない目標になってしまいます。評価基準を明確にするためにも、数値などを用いて達成度を算出できる目標にすることが大切です。

### Achievable：達成可能性（達成可能な目標か）

Achievableは「実現可能な」という意味で、「達成可能な目標か」を基準にして目標を考えます。Achievableでは、地域のポテンシャルやこれまでの取組をもとに「頑張れば達成できる目標か」をチェックすることが大切です。達成できないような難しい目標を立ててしまうと、モチベーションが下がる原因になりかねません。逆に、簡単に達成できる目標だと地域の成長を促せません。少し上のレベルの目標を設定することで、モチベーションの向上や成長に繋がります。

### Relevant：関連性（目標の達成が地域の利益につながるか）

Relevantは「関連した」という意味で、「地域の利益に関連しているか」を基準に目標を設定します。目標と地域の利益がつながることでモチベーションの維持ができるため、Relevantは重要な基準の1つです。「達成すれば地域がどのようによくなる」など、公益的である目標を立てることでステークホルダーも目標に対してのやる気が出ます。

### Time-bound：期限（期限が設定されている目標か）

Time-boundは「期限を定めた」という意味で、目標に期限があるかを確認する項目です。目標には、期限を設定することが大切です。期限がないと目標達成が先延ばしになってしまいます。「〇〇年度まで」と計画を立てることで、施策への集中力があがり、取組のスピードを高められます。

---

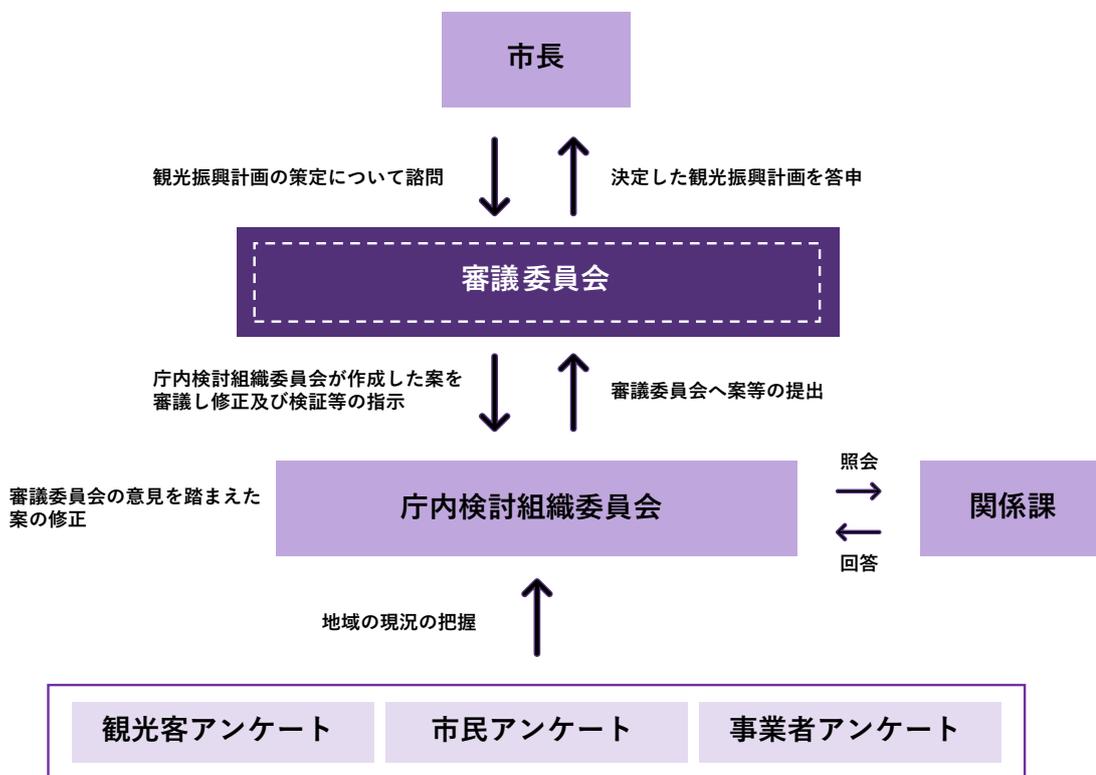
# 資料編

- 
- 01 計画策定の経過
  - 02 各種調査結果概要
  - 03 計画の運用

# 01 計画策定の経過

## (1) 策定の進め方

本計画は、以下の進め方で策定しました。



## (2) 策定の経過

### 庁内検討組織委員会

会議名	年月日	協議内容
第1回 庁内検討 組織委員会	令和5年 8月20日	・ 前計画の振り返りについて ・ 市民・観光客・事業者アンケートについて ・ 第2次豊見城市観光振興計画審議委員会委員の紹介について
第2回 庁内検討 組織委員会	令和5年 12月18日	・ 第2次豊見城市観光振興計画（骨子案）について
第3回 庁内検討 組織委員会	令和6年 2月6日	・ 第2次豊見城市観光振興計画（素案）について

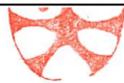


## 豊見城市観光振興計画審議委員会

会議名	年月日	協議内容
第1回 豊見城市 観光振興計画 審議委員会	令和5年 8月29日	・前計画の振り返りについて ・アンケート調査票について
第2回 豊見城市 観光振興計画 審議委員会	令和5年 12月22日	・第2次豊見城市観光振興計画（骨子案）について
第3回 豊見城市 観光振興計画 審議委員会	令和6年 2月16日	・第2次豊見城市観光振興計画（素案）について
第4回 豊見城市 観光振興計画 審議委員会	令和6年 3月21日	・第3回豊見城市観光振興計画審議委員会の 委員意見に対する対応について



## 答申文



令和6年3月21日

豊見城市長 徳元次人 殿

豊見城市観光振興計画審議委員会  
委員長 荒川 雅志

### 第2次豊見城市観光振興計画（素案）について（答申）

令和5年8月29日付け、豊総産226号にて豊見城市観光振興計画審議委員会へ諮問がございました第2次豊見城市観光振興計画（素案）について、慎重に審議した結果を答申します。

なお、以下のとおり豊見城市観光審議委員会の提言を付しますので、本計画の推進にあたっては、本委員会の意を十分に尊重され、今後、豊見城市の観光振興に努められるよう要望します。

### 記

1. 本審議委員会の過程において出された意見の趣旨を踏まえ、今後の行政運営において活かされるよう要望します。
2. 計画の実効性を確保する為、適切な進行管理を行う体制と検証を行う機関の構築に取り組んでいただけるよう要望します。
3. 市民と事業者、行政とが連携・協力する観光振興の指針とする為、広く本計画の周知を図られるよう要望します。

以上

### (3) 策定メンバー

#### 豊見城市観光振興計画審議委員会

##### ■ 委員名簿

区分	委員	所属・役職
委員長	荒川 雅志	琉球大学 国際地域創造学部 教授
副委員長	大城 勤	一般社団法人 豊見城市観光協会 会長
	伊元 幸春	おきなわ工芸の杜共同企業体 館長
	上原 直彦	豊見城市商工会 会長
	大城 直人	J A おきなわ豊見城支店 支店長
	兼城 賢成	リゾート琉球株式会社 代表取締役
	狩 俣 稔	豊見城市自治会長会 会長
	長 堂 綾	沖縄空手会館 所長
	屋 良 朝治	O C V B 旧海軍司令部壕事業所 所長
	大 湾 文子	株式会社エンモメンツ 代表取締役

#### 庁内検討組織委員会

##### ■ 委員名簿

区分	所属・役職
委員長	総務企画部 産業振興課 課長
	総務企画部 総務課 課長
	総務企画部 秘書広報課 課長
	都市計画部 都市計画課 課長
	都市計画部 都市計画課 参事
	経済建設部 農林水産課 課長
	経済建設部 公園緑地課 課長
	教育部 文化課 課長
	教育部 生涯学習振興課 課長

## 02 各種調査結果

### (1) 観光客アンケート

#### 調査概要

対象：調査地点（瀬長島ウミカジテラス、沖縄アウトレットモールあしびなー、豊崎美らSUNビーチ）を訪れた観光客

方法：調査員によるインタビュー形式

期間：令和5年9月29日（金）から10月2日（月）

回収：946人

※結果概要において、構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計値が100%とはならない場合があります。

#### 結果概要

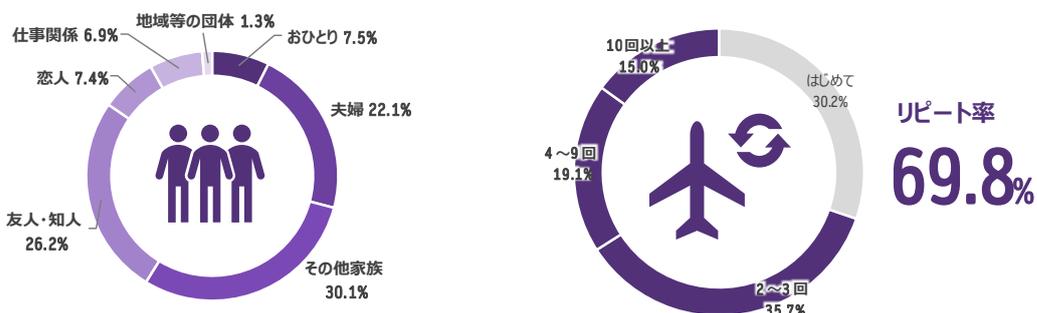
調査地点のうち、商業施設での回収が8割でした。また、回答者の居住地は、国内観光客が約50%、沖縄県内と国外の観光客がほぼ同程度の割合でした。



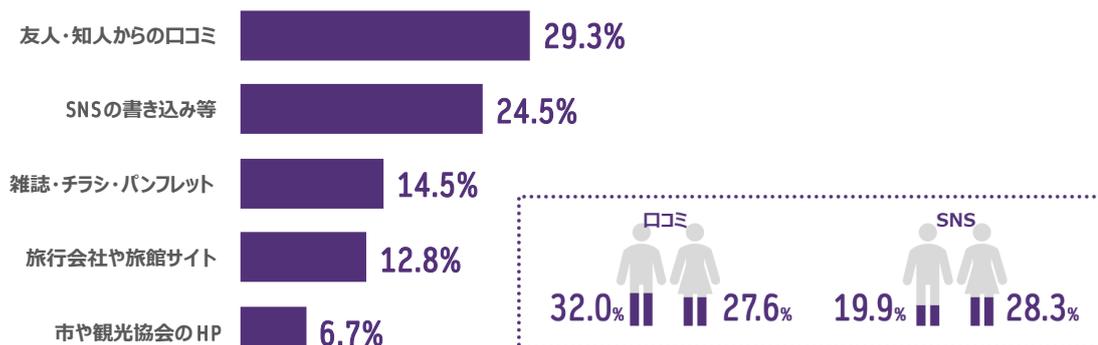
回答者の年代と性別は、若い女性にやや偏りが見られる結果となりました。



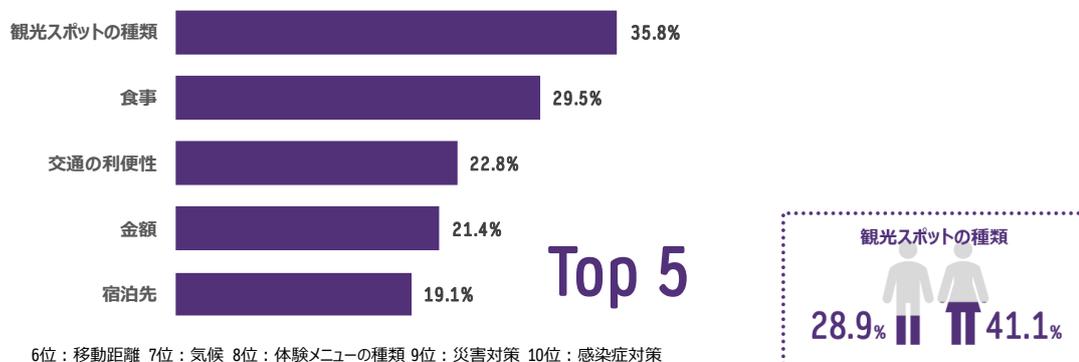
本市を訪れる方はグループ客が多く、なかでも家族連れが半数程度でした。また、来訪者の約半数が複数回目の訪問であり、リピーター率69.8%であることが分かりました。



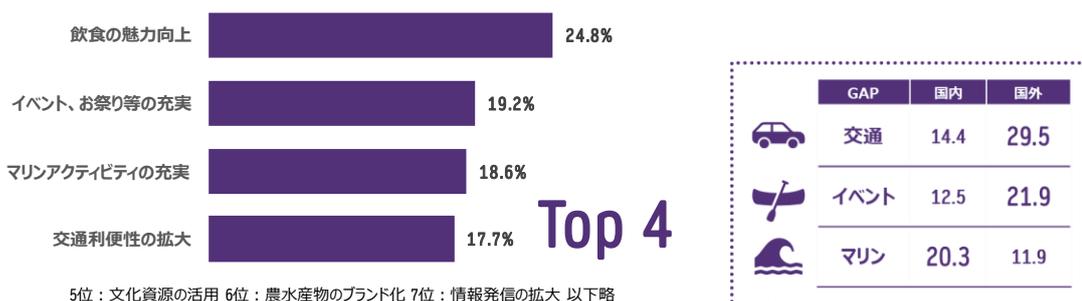
情報を集める際の活用媒体について、「友人・知人からの口コミ」が最も多い結果となりました。しかし、性別ごとに見ると、男性は口コミ、女性はSNSを参考にしている傾向がうかがえました。



訪問先の選定基準について、「観光スポットの種類」の豊富さが決めてになっており、特に女性でその傾向が強いことがわかりました。



今後、市に求められる取組みとして「飲食の魅力向上」が最も多い結果となりました。一方、2～4位は、国内観光客・国外観光客それぞれでニーズの差が大きいことがうかがえました。



## (2) 市民アンケート

### 調査概要

対象：無作為抽出された満 18 歳以上の市民

方法：郵送での配布・回収

期間：令和5年 10 月 9 日(月)から 10 月 25 日(水)まで

回収：22.7%(454 人/2,000 人)

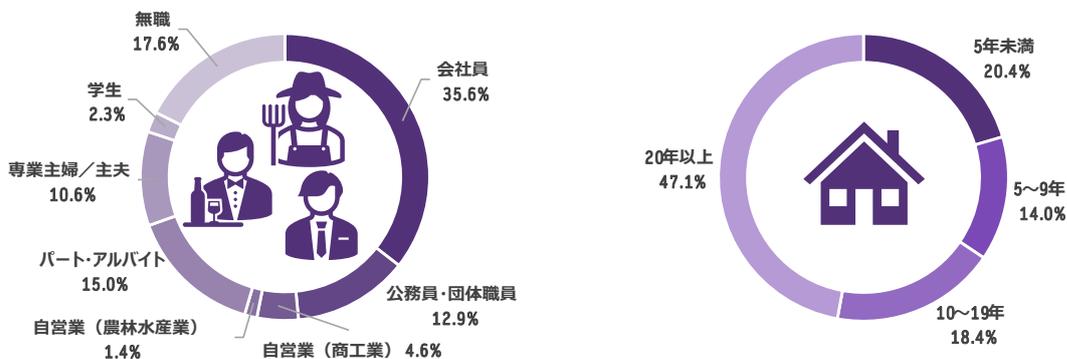
※結果概要において、構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計値が 100%とはならない場合があります。

### 結果概要

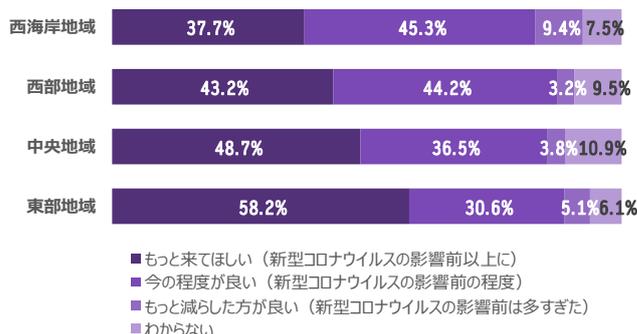
回答者の年代と性別は、全体的に女性へ偏りが見られる結果となりました。



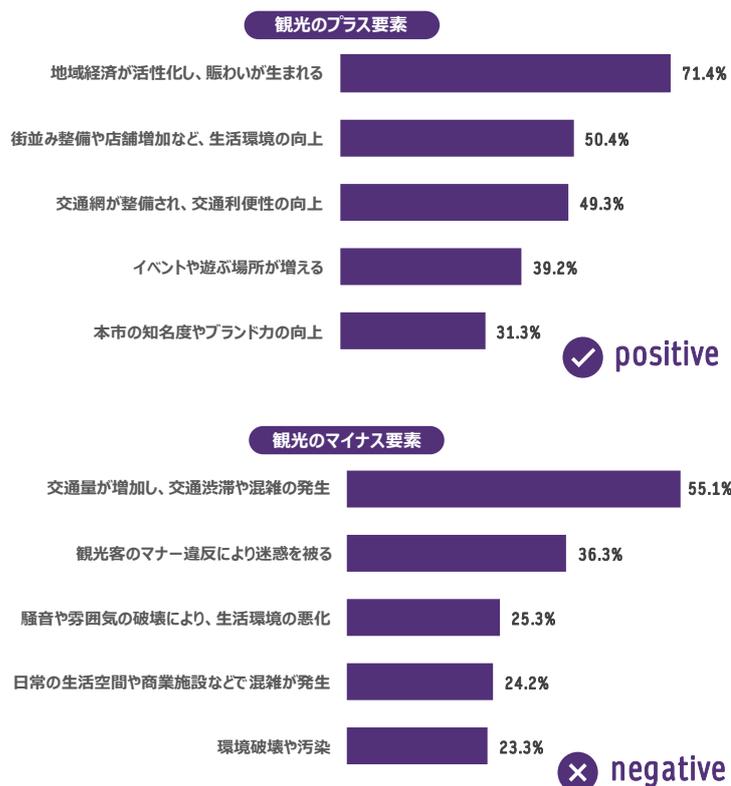
回答者のうち「会社員」が最も多い結果となりました。また、回答者の約半数が本市に 20 年以上お住まいであると確認できました。



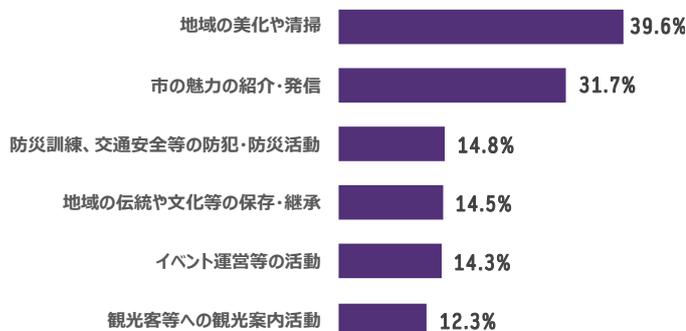
観光客の来訪について基本的には好意的ですが、本市内で多くの観光客が訪れる西海岸地域において収容力に関する懸念がうかがえます。



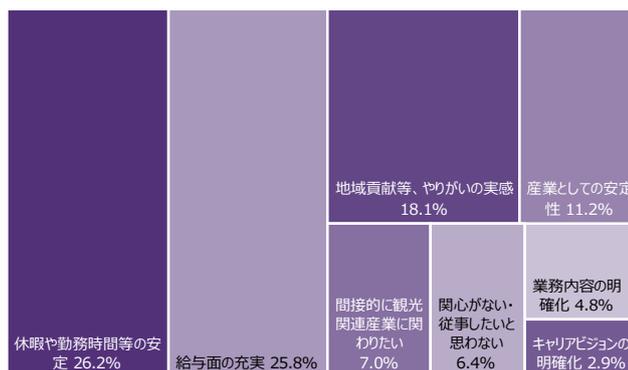
観光客の増加によるプラス要素として、経済効果の実感が大きくなっています。一方、プラス要素を上回る程のマイナス要素として交通環境の圧迫を感じているとかがえます。



観光への関与について、とりわけ環境保全や情報発信において市民参画によるマンパワーとしての貢献が期待できます。



観光産業に就くうえで、勤務時間や給与面等労働環境に関するイメージで敬遠される可能性がうかがえます。



### (3) 事業者アンケート

#### 調査概要

対象：(一社)豊見城市観光協会および豊見城市商工会の会員

方法：郵送での配布・回収

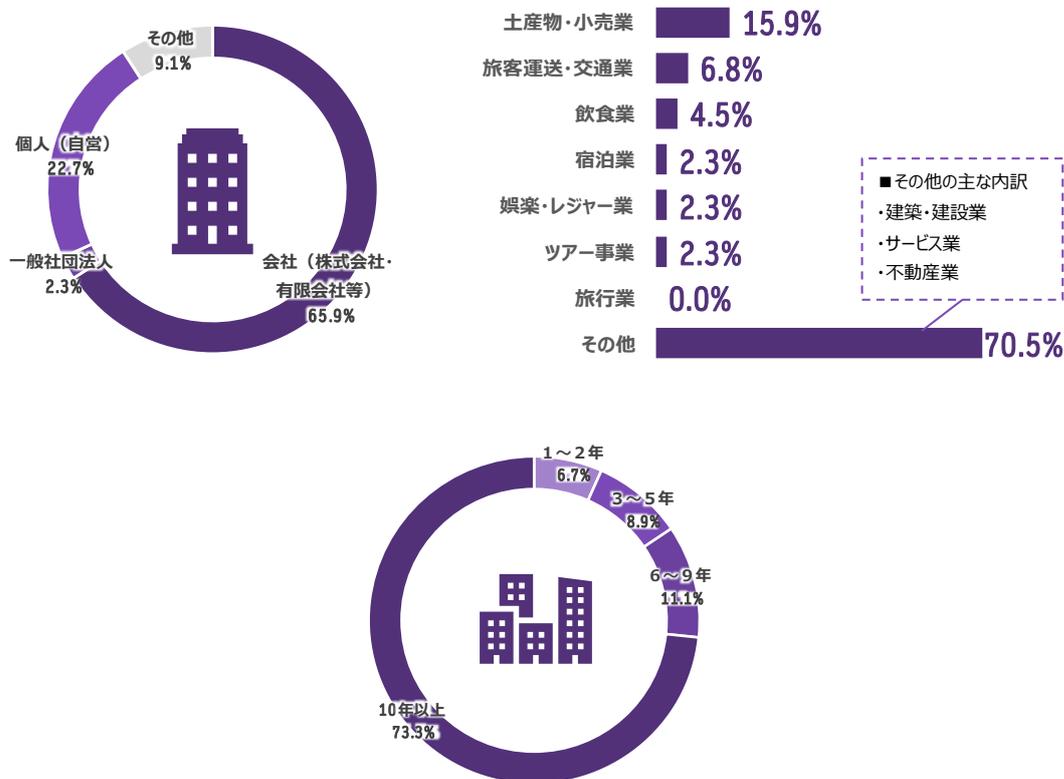
期間：令和5年12月21日(木)から令和6年1月12日(金)まで

回収：26.0%(45件/173件)

※結果概要において、構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計値が100%とはならない場合があります。

#### 結果概要

回答者の組織形態は株式会社や有限会社等が、業種は土産物・小売業が最も多い結果となりました。また、事業継続年数が長い回答者の割合が高くなっています。



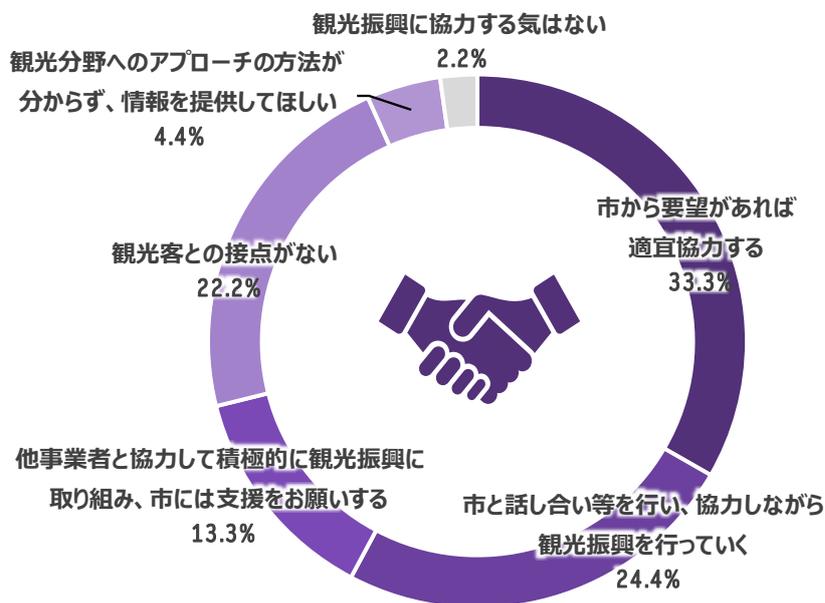
県内客が主な顧客層である回答者は約4割を占めています。一方で、約2割が観光客を主な顧客としていると回答しました。

県内で近隣にお住まいの方が多い	34.9%	県内の比較的遠方にお住まいの方が多い	4.7%	外国からの観光客が多い、	4.7%	顧客は企業である、	30.2%
		県外からの観光客が多い	16.3%	地元客と観光客が半数程度である、	9.3%		

回答者が経営上課題に感じていること、もしくは今後取組む必要があると考えていることは、「人材の不足」が最も多い結果となりました。



観光振興における回答者の協働意向について、「市から要望があれば適宜協力する」をはじめ、協働に前向きな回答が約7割を占めました。一方、「観光客との接点がない」または「観光分野へのアプローチの方法が分からず、情報を提供してほしい」という回答が26.6%を占めており、観光振興による効果の啓発や事業者への情報提供が必要である状況がうかがえます。



## 03 計画の運用

### (1) 審議委員会の位置付け

#### 豊見城市観光振興計画審議委員会規則

豊見城市観光振興計画審議委員会規則（平成24年3月9日規則第2号）

最終改正:令和2年3月31日規則第19号

改正内容:令和2年3月31日規則第19号 [令和2年4月1日]

○豊見城市観光振興計画審議委員会規則

平成24年3月9日規則第2号

改正

平成25年10月11日規則第46号

平成30年3月2日規則第5号

令和2年3月31日規則第19号

豊見城市観光振興計画審議委員会規則

(趣旨)

第1条 この規則は、豊見城市附属機関の設置に関する条例(平成16年豊見城市条例第18号)第3条の規定に基づき、豊見城市観光振興計画審議委員会(以下「委員会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(担任事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について調査審議するものとする。

(1) 豊見城市観光振興計画(以下、「計画」という。)の策定に関すること。

(2) 計画における施策の進捗状況の評価及び検証に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、委員10人以内で組織する。

2 委員は、観光に関する見識を有する者のうちから市長が委嘱又は任命する。

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選でこれを定める。

2 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が必要に応じて招集する。

2 委員会は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開くことができない。

3 委員長は、会議の議長となる。

4 委員会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

5 委員長は、会議に必要があるときは、有識者又は関係者の出席を求めてその意見若しくは説明を聴き又は関係者からの資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、総務企画部産業振興課において処理する。

(その他)

第8条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この規則は、公布の日から施行する。

(招集の特例)

2 この規則の施行後最初に開かれる会議は、第6条第1項の規定にかかわらず、市長が招集する。

附 則(平成25年10月11日規則第46号)

この規則は、公布の日から施行する。

附 則(平成30年3月2日規則第5号)

(施行期日)

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則(令和2年3月31日規則第19号)

この規則は、令和2年4月1日から施行する。

## (2) 市内検討組織委員会の位置付けと役割

### 第2次豊見城市観光振興計画策定に係る市内検討組織委員会設置要綱

#### 第2次豊見城市観光振興計画策定に係る市内検討組織委員会設置要綱

##### (設置目的)

第1条 第5次豊見城市総合計画で掲げる観光・リゾート産業の振興を実現する為、「第2次豊見城市観光振興計画審議委員会」に諮る議題について、関係課にて意思決定を行うことを目的として、第2次豊見城市観光振興計画策定に係る市内検討組織委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

##### (検討事項)

第2条 委員会は、前条の目的を達成するために、次の事項について検討を行う。

- (1) 第2次豊見城市観光振興計画策定に関する事
- (2) その他、委員会が必要と認める事項に関する事

##### (組織等)

第3条 委員会は、次の委員で構成する。

- (1) 産業振興課長
- (2) 総務課長
- (3) 秘書広報課長
- (4) 都市計画課長
- (5) 都市計画参事
- (6) 農林水産課長
- (7) 公園緑地課長
- (8) 文化課長
- (9) 生涯学習振興課長

2 委員会に座長を置き、産業振興課長が務める。

3 座長は、委員会を掌理する。

4 座長に事故があるときは、あらかじめ指名する委員が、その職務を代理する。

##### (招集等)

第4条 委員会は、座長が招集する。

2 委員会の議長は、座長が務める。

3 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立する。

4 委員は、やむを得ない場合には、座長の承諾を得て他の者に職務を代理させることができる。

##### (関係者の出席)

第5条 座長は、必要があると認めるときは、委員会に関係者の出席を求め、その意見を聞くことができる。

##### (守秘義務)

第6条 委員は、個人を識別させる情報や個人の権利利益を害するおそれのある情報などを漏らしてはならない。また、その職を退いた後も同様とする。

##### (庶務)

第7条 委員会の庶務は、産業振興課が行う。

##### (その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項については、座長が委員会に諮って定める。

#### 附 則

この要綱は、令和5年7月30日から施行する。

### (3) 活動指標の備考

#### ア 将来像に関する目標指標 (KGI)

将来像に関する目標指標(KGI)について、以下のように検討・設定しました。  
なお、経過や目標値の達成度合を測定するうえでは、現状値の算出方法となるべく同じ条件で測定するものとします。

##### < 市民満足度 >

###### 現状値の算出方法

市民アンケートにて、前計画における観光施策単位での満足度及び、全体としての総合的な満足度を把握し、総合的な満足度において「満足」「やや満足」回答を合算した数値として65.1%を算出した。(本編47ページにアンケート結果のグラフあり)

###### 目標値の設定の考え方

市民満足度では施策単位の満足度で「観光拠点の整備充実」等が高い満足度の一方で、「交通インフラの充実」や「広域市町との連携」等でやや低い満足度になっており、それらのバランスから総合満足度を「どちらでもない」と回答した市民が相当数いると考えられるため、次期計画において、これらの積み残し課題や新規課題への対応を網羅的に取り組むことで、総合満足度を5%程度向上させ、70%を目指すものとする。

##### < 観光客満足度 >

###### 現状値の算出方法

観光客アンケートにて、本市での観光の満足度を把握し、「大変満足」「満足」「やや満足」回答を合算した数値として93.9%<sup>19</sup>を算出した。

###### 目標値の設定の考え方

観光客の満足度は既に高い水準にあることから、今後リピートの創出を図っていく中で、何度来ても、その都度満足してもらっただけの観光地としての魅力が求められ、現在の水準を維持することでも、十分に挑戦的な設定であることから、概ね維持かつ微増の95%を目指すものとする。

<sup>19</sup> 本編 p47 アンケート結果グラフ参照。

## イ 基本目標に関する目標指標（KPI）

基本目標に関する目標指標（KPI）について、以下のように検討・設定しました。

なお、経過や目標値の達成度合を測定するうえでは、現状値の算出方法となるべく同じ条件で測定するものとします。

### < 観光消費額 >

#### 現状値の算出方法

観光客アンケートより、国内・国外観光客それぞれの観光消費額を把握（A）。

沖縄県観光統計実態調査の結果から令和5年の国内・国外入域観光客数を把握（B）。

また、（一財）沖縄観光コンベンションビューローのおきなわ観光地域カルテから本市を訪れる入域観光客の県内シェア（C）を掛け合わせる。

消費額と入域観光客数を、国内・国外それぞれで算出し、合計額 75.8 億円を設定した。

$$\begin{aligned} & \{A(\text{国内客消費単価}) \times B(\text{R5 国内入域客数}) \times C(\text{県内シェア})\} \\ & + \{A(\text{国外客消費単価}) \times B(\text{R5 国外入域客数}) \times C(\text{県内シェア})\} \\ & = (10,980 \text{ 円} \times 7,248,800 \text{ 人} \times 5.3\%) + (64,335 \text{ 円} \times 986,300 \text{ 人} \times 5.3\%) \\ & = 75.8 \text{ 億円} \end{aligned}$$

#### 目標値の設定の考え方

観光消費額は、本計画における基本目標1に関する施策を始めとした取組を通じ、市内でのキャッシュポイントの増加、コンテンツの高付加価値化に取り組むことで、1.1 倍に上昇させることを目指す。

また、国内入域観光客数は、令和5年の国内入域観光客数に対し、これまでのピークである令和元年値を基準に、平成 30 年から令和元年の上昇率 4% で増加させることを目指す。一方、国外入域観光客数は令和元年のピーク時の水準に戻すことを目指す。

現状値の算出方法に記載の式と、上記の条件設定を用いて試算し、合計 170.9 億円を目指すものとする。

$$\begin{aligned} & \{A(\text{国内客消費単価} \times 1.1) \times B(\text{R5 国内入域客数} \times 1.04 \text{ の7乗}) \times C(\text{県内シェア})\} \\ & + \{A(\text{国外客消費単価} \times 1.1) \times B(\text{R1 国外入域客数}) \times C(\text{県内シェア})\} \\ & = (12,078 \text{ 円} \times 9,530,000 \text{ 人} \times 5.3\%) + (70,769 \text{ 円} \times 2,930,000 \text{ 人} \times 5.3\%) \\ & = 170.9 \text{ 億円} \end{aligned}$$

## < 地域への愛着や誇りが高まる実感 >

### 現状値の算出方法

市民アンケートより、観光客の増加による生活環境へのプラスの変化を問う設問において、「地域への愛着や誇りが高まる」と回答した方の割合 18.3% を基準値とした。

### 目標値の設定の考え方

本計画における基本目標1に関する施策を始めとした取組を通じ、市民と観光客の良質な接点をつくることで、交流により市民の「地域への愛着や誇りが高まる」実感を高め、35% 目指すものとする。

## < 環境保全活動への参加者数 >

### 現状値の算出方法

「漫湖チュラカーギ作戦」や「国場川水あしび」などの環境保全に関するイベントの合計参加者数 165 人を基準値とした。

### 目標値の設定の考え方

「漫湖チュラカーギ作戦」や「国場川水あしび」の参加者増加を目指すほか、その他の環境保全に関するイベントや活動等が今後広く展開していくことで、330 人を目指すものとする。

第2次豊見城市観光振興計画  
令和6年3月

発行 沖縄県豊見城市  
沖縄県豊見城市宜保一丁目1番地1  
(098)850-5876  
編集 総務企画部 産業振興課



